

2023(令和5)年度
事業報告書

2023 SANKO GAKUEN

Business Report



学校法人 三幸学園

目 次

I. 法人の概要

1. 建学の精神・使命・目的	P 3
2. 学校法人の沿革	P 3
3. 設置する学校・学科等 ～ 学生数の状況	P 7
4. 役員・評議員・教職員の概要	P 9

II. 事業の概要

1. 募集活動	P 1 1
2. 進路決定率	P 1 2
3. 教育環境の整備	P 1 2
4. 教育改革・学生支援	P 1 3
(1) 教育体系の再構築～三幸学園の原点『あきらめない教育』	P 1 3
(2) 担任指導教員の導入および担任配置の工夫によるきめ細やかな学生指導	P 1 3
(3) 入学前保護者会・初年次教育の充実	P 1 3
(4) 心の教育「未来デザインプログラム」の実施	P 1 4
(5) アクティブラーニング(AL)の強化	P 1 4
(6) 学生アンケートの実施および活用の強化	P 1 4
(7) 退学率低下への挑戦	P 1 4
(8) 同窓会組織の再構築	P 1 5
(9) 卒業生支援	P 1 5
(10) 学校行事の充実	P 1 5
5. 社会貢献	P 2 0
(1) 東京未来大学	P 2 0
(2) 小田原短期大学	P 2 1
(3) 飛鳥未来高等学校・飛鳥未来きずな高等学校	P 2 2
(4) フリースクール	P 2 3
(5) 支援学校 仙台みらい高等学園	P 2 3

（６）事業開発部	P 2 3
（７）SANKO留学生サポートセンター	P 2 5
（８）S a n k o G a k u e n I n t e r n a t i o n a l	P 2 5
6. 運営	P 2 5
（１）産学連携と職業実践専門課程への取組み	P 2 5
（２）学校評価の推進	P 2 8
（３）児童福祉事業の積極的な推進	P 2 8

Ⅲ. 財務の概要

1. 2 0 2 3 年度決算	P 3 0
（１）概要	P 3 0
（２）資金収支計算書	P 3 0
（３）事業活動収支計算書	P 3 3
（４）貸借対照表	P 3 6
（５）財産目録（要約）	P 3 8
（６）収益事業会計決算	P 3 9
（７）監査報告書	P 4 0
2. 経年比較表	P 4 1
（１）資金収支計算書 5 ケ年比較	P 4 1
（２）事業活動収支計算書 5 ケ年比較	P 4 2
（３）貸借対照表 5 ケ年比較	P 4 4
3. 主な財務比率等	P 4 5
（１）事業活動収支計算書関係比率（過去 5 年）	P 4 5
（２）貸借対照表関係比率（過去 5 年）	P 4 6
（３）活動区分資金収支計算書	P 4 7

I. 法人の概要

1. 建学の精神・使命・目的

本学園は、創立以来、専門学校運営を中心に、専門的な知識や技術を習得するとともに人間性豊かな心をあわせ持つ人材を育成するため、『技能と心の調和』を教育理念に掲げています。

その中で、すべての生徒に可能性があると信じて成功するまで情熱をもって指導し続ける『あきらめない教育』という考え方があります。

この『あきらめない教育』を一貫して実践していくことで今日まで20万人を超える卒業生を社会に送り出してきました。

引き続き『あきらめない教育』の更なる深化と産学連携により、社会の変化に即応した実践的な職業教育による中核的・専門的な人材を養成する教育機関として社会に貢献すべき使命を全うしていきます。

そして、豊かで質の高い生活を確保するとともに、安心・安全な社会を継続的に実現していくために、『人を活かし、困難を希望に変える』をミッションに掲げ、『高度な専門知識・技能、人間性豊かな心、高い意欲を持ち続け自ら考え行動することで社会に貢献する人材を養成する』、教育・社会貢献を通じて、『人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする』ビジョンの実現を目指し、社会と産業界の要請に応える人材の育成に注力するとともに、本学園が有する高い技能・技術を駆使し時代を先取りした教育機会の提供を推進していきます。

2. 学校法人の沿革

年	月	沿 革
昭和60年(1985)	3月	学校法人三幸学園 設立
昭和60年(1985)	4月	日本歯科助手専門学校が学校法人立の専修学校になる
昭和61年(1986)	4月	東京医療秘書専門学校(現 東京医療秘書福祉&IT 専門学校)開校 大阪医療秘書歯科助手専門学校(現 大阪医療秘書福祉&IT 専門学校)開校
昭和62年(1987)	4月	仙台医療秘書歯科助手専門学校(現 仙台医療秘書福祉&IT 専門学校)開校 名古屋医療秘書歯科秘書専門学校(現 名古屋医療秘書福祉&IT 専門学校)開校
昭和63年(1988)	4月	札幌医療秘書歯科助手専門学校(現 札幌医療秘書福祉専門学校)開校 福岡医療秘書歯科助手専門学校(現 福岡医療秘書福祉専門学校)開校

平成 元年 (1989)	4 月	大阪医療秘書歯科助手専門学校に厚生省指定介護福祉専門課程 設置 以後、介護福祉士の養成を全国で行う
平成 2 年 (1990)	4 月	横浜医療秘書歯科助手専門学校 (現 横浜医療秘書専門学校) 開校
平成 4 年 (1992)	4 月	大阪リゾートアンドスポーツ専門学校 (現 大阪リゾート＆スポーツ専門学校) 開校
平成 7 年 (1995)	4 月	仙台リゾートアンドスポーツ専門学校 (現 仙台リゾート＆スポーツ専門学校) 開校 福岡リゾートアンドスポーツ専門学校 (現 福岡リゾート＆スポーツ専門学校) 開校
平成 9 年 (1997)	4 月	名古屋リゾートアンドスポーツ専門学校 (現 名古屋リゾート＆スポーツ専門学校) 開校
平成 10 年 (1998)	4 月	東京リゾートアンドスポーツ専門学校 (現 東京リゾート＆スポーツ専門学校) 開校
平成 12 年 (2000)	4 月	東京ビューティーアート専門学校 開校 福岡ビューティーアート専門学校 開校
平成 14 年 (2002)	4 月	札幌ビューティーアート専門学校 開校 名古屋ビューティーアート専門学校 開校
平成 15 年 (2003)	4 月	仙台ビューティーアート専門学校 開校 大阪ビューティーアート専門学校 開校
平成 16 年 (2004)	4 月	横浜リゾートアンドスポーツ専門学校 (現 横浜リゾート＆スポーツ専門学校) 開校 横浜ビューティーアート専門学校 (現 横浜ビューティー＆ブライダル専門学校) 開校
平成 17 年 (2005)	4 月	札幌リゾートアンドスポーツ専門学校 (現 札幌スポーツ＆メディカル専門学校) 開校
平成 18 年 (2006)	4 月	東京幼児教育専門学校 (現 東京こども専門学校) 開校
平成 19 年 (2007)	4 月	東京未来大学 こども心理学部 開設 札幌こども専門学校 開校 横浜こども専門学校 開校 大阪こども専門学校 開校
平成 21 年 (2009)	4 月	札幌ブライダル専門学校 (現 札幌ブライダル＆ホテル観光専門学校) 開校 東京医療秘書福祉専門学校千葉校 (現 千葉医療秘書＆IT 専門学校) 開校 東京リゾートアンドスポーツ専門学校千葉校 (現 千葉リゾート＆スポーツ専門学校) 開校 東京ビューティーアート専門学校千葉校 (現 千葉ビューティー＆ブライダル専門学校) 開校

平成 22 年 (2010)	4 月	飛鳥未来高等学校 開校 東京スイーツアンドカフェ専門学校 (現 東京スイーツ&カフェ専門学校) 開校 広島医療秘書こども専門学校 開校 広島リゾートアンドスポーツ専門学校 (現 広島リゾート&スポーツ専門学校) 開校 広島ビューティーアート専門学校 開校 (現 広島ビューティー&ブライダル専門学校)
平成 23 年 (2011)	4 月	大宮医療秘書福祉専門学校 (現 大宮医療秘書専門学校) 開校 大宮ビューティーアート専門学校 (現 大宮ビューティー&ブライダル専門学校) 開校 大宮スイーツアンドカフェ専門学校 (現 大宮スイーツ&カフェ専門学校) 開校
平成 24 年 (2012)	4 月	東京未来大学モチベーション行動科学部 モチベーション行動科学学科 設置 東京ウェディングアンドブライダル専門学校 (現 東京ウェディング&ブライダル専門学校) 開校 横浜スイーツアンドカフェ専門学校 (現 横浜スイーツ&カフェ専門学校) 開校 仙台こども専門学校 開校 仙台ウェディングアンドブライダル専門学校 (現 仙台ウェディング&ブライダル専門学校) 開校 仙台スイーツアンドカフェ専門学校 (現 仙台スイーツ&カフェ専門学校) 開校 大阪ウェディングアンドブライダル専門学校 (現 大阪ウェディング&ブライダル専門学校) 開校 ぽけっとランドあびこ保育園 開園
平成 24 年 (2012)	12 月	辻学園調理・製菓専門学校 設置 (法人合併による) 辻学園栄養専門学校 設置 (法人合併による)
平成 25 年 (2013)	4 月	東京未来大学モチベーション行動科学部 モチベーション行動科学学科 通信教育課程 開設 札幌スイーツアンドカフェ専門学校 (現 札幌スイーツ&カフェ専門学校) 開校 福岡こども専門学校 開校 大宮こども専門学校 開校 名古屋こども専門学校 開校 名古屋ウェディングアンドブライダル専門学校 (現 名古屋ウェディング&ブライダル専門学校) 開校

平成 26 年 (2014)	4 月	ぽけっとランド深大寺保育園 開園
		ぽけっとランド江戸川台駅前保育園 開園
		小田原短期大学食物栄養学科
		保育学科 設置
		保育学科通信教育課程 設置 (法人合併による)
平成 27 年 (2015)	4 月	福岡ウェディングアンドブライダル専門学校 (現 福岡ウェディング&ブライダル専門学校) 開校
		ぽけっとランド南千住瑞光保育園 開園
		ぽけっとランド市ヶ谷保育園 開園
		ぽけっとランド明石町保育園 開園
		ぽけっとランド西蒲田保育園 開園
平成 28 年 (2016)	4 月	東京未来大学福祉保育専門学校 開校
		東京こども保育園 開園
		ぽけっとランド浅草橋保育園 開園
		名古屋スイーツアンドカフェ専門学校 (現 名古屋スイーツ&カフェ専門学校) 開校
		名古屋辻学園調理専門学校 開校
平成 29 年 (2017)	4 月	千葉こども専門学校 開校
		神戸元町医療秘書専門学校 開校
		神戸元町こども専門学校 開校
		ぽけっとランド赤羽保育園 開園
		仙台こども保育園 開園
平成 30 年 (2018)	4 月	飛鳥未来きずな高等学校 開校
		東京保育医療秘書専門学校 (現 東京立川こども専門学校) 開校
		東京墨田看護専門学校 設置(設置者変更による)
		沖縄ブライダルアンドホテル観光専門学校 開校
		沖縄こども専門学校 開校
令和 2 年 (2020)	4 月	ぽけっとランド立川保育園 開園
		千葉こども保育園 開園
		沖縄こども保育園 開園
		東京ビューティーアンドブライダル専門学校 (現 東京ビューティー&ブライダル専門学校) 開校
		札幌こども保育園 開園
令和 2 年 (2020)	4 月	広島こども保育園 開園
		沖縄リゾートアンドスポーツ専門学校 (現 沖縄リゾート&スポーツ専門学校) 開校
		沖縄ビューティーアート専門学校 (沖縄ビューティー&ブライダル専門学校) 開校

令和 2 年 (2020)	6 月	ぽけっとランド西東京保育園 開園
令和 3 年 (2021)	4 月	ぽけっとランド亀有保育園 開園
		ぽけっとランドさぎのみや保育園 開園
		支援学校 仙台みらい高等学園 開園
		東京みらい AI&IT 専門学校 開校
		ぽけっとランド仙川保育園 開園
		ぽけっとランド本郷保育園 開園
令和 3 年 (2021)	10 月	SANKO 日本語学校綾瀬 開校
令和 4 年 (2022)	4 月	名古屋こども保育園 開園
令和 6 年 (2024)	4 月	飛鳥未来きぼう高等学校 開校
		東京みらい中学校 開校
		沖縄みらい AI&IT 専門学校 開校

3. 設置する学校・学科等 ～ 学生数の状況

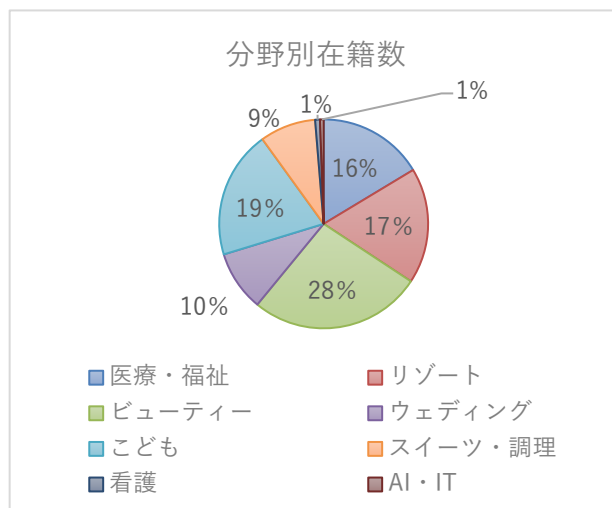
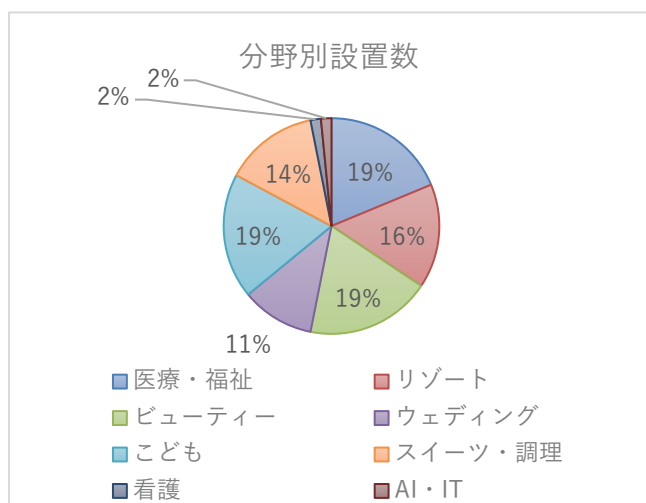
学校法人三幸学園は、女性の社会進出や自立をサポートするための専門教育事業からスタートし、社会貢献を事業展開の目的に掲げ、来る高齢化社会に向け、1985年3月に『医療秘書』『歯科助手』の育成を軸とした専門学校（現東京医療秘書福祉&IT専門学校）を設立しました。以後、時代ニーズの高まりから全国に、医療秘書、歯科助手、介護福祉士、保育士、スポーツインストラクター、ビューティーアーティスト、ブライダルプランナー、パティシエ、調理師を養成する専門学校64校、東京未来大学、小田原短期大学、広域通信制高等学校2校（28キャンパス）、特別支援学校、認可保育園23園、認証保育園16園、スポーツを中心に保育を行うスポーツ保育園4園の設置・運営を行っています。各学校・園の2023年5月1日現在の入学定員、在籍数は以下の通りです。

学校数・入学定員・収容定員・在籍数（2023年5月1日現在）

① 専門学校

（単位：人）

学校の種類	学校数	入学定員	収容定員	在籍数
医療・福祉	12	3,426	6,935	4,267
リゾート	10	2,931	6,487	4,629
ビューティー	12	4,806	8,644	7,509
ウェディング	7	1,376	2,752	2,690
こども	12	2,843	6,893	5,230
スイーツ・調理	9	1,749	3,168	2,499
看護	1	70	210	218
AI・IT	1	120	240	188
合計	64	17,371	35,329	27,230



②大学【東京未来大学】

(単位：人)

学部／学科名		入学定員	収容定員	在籍数
こども心理学部 ／こども心理学科	通学	280	1,120	1,255
	通信	75	900	1,224
	〃(3年次編入)	300		
モチベーション行動科学部 ／モチベーション行動科学科	通学	60	240	289
	通信	20	120	225
	〃(3年次編入)	20		
合計		755	2,380	2,993

③短期大学【小田原短期大学】

(単位：人)

学科名		入学定員	収容定員	在籍数
食物栄養学科	通学	80	160	160
保育学科	通学	140	280	221
	通信	2,200	4,400	4,728
合計		2,420	4,840	5,109

④広域通信制高等学校

(単位：人)

学校名	キャンパス数	入学定員	収容定員	在籍数
飛鳥未来高等学校	12	3,678	11,030	9,313
飛鳥未来きずな高等学校	16	2,400	7,300	6,475
合計	28	6,078	18,330	15,788

⑤ 特別支援学校【仙台みらい高等学園】

(単位：人)

学科名	入学定員	収容定員	在籍数
本科・専攻科	40	104	54

⑥ 日本語学校【綾瀬】

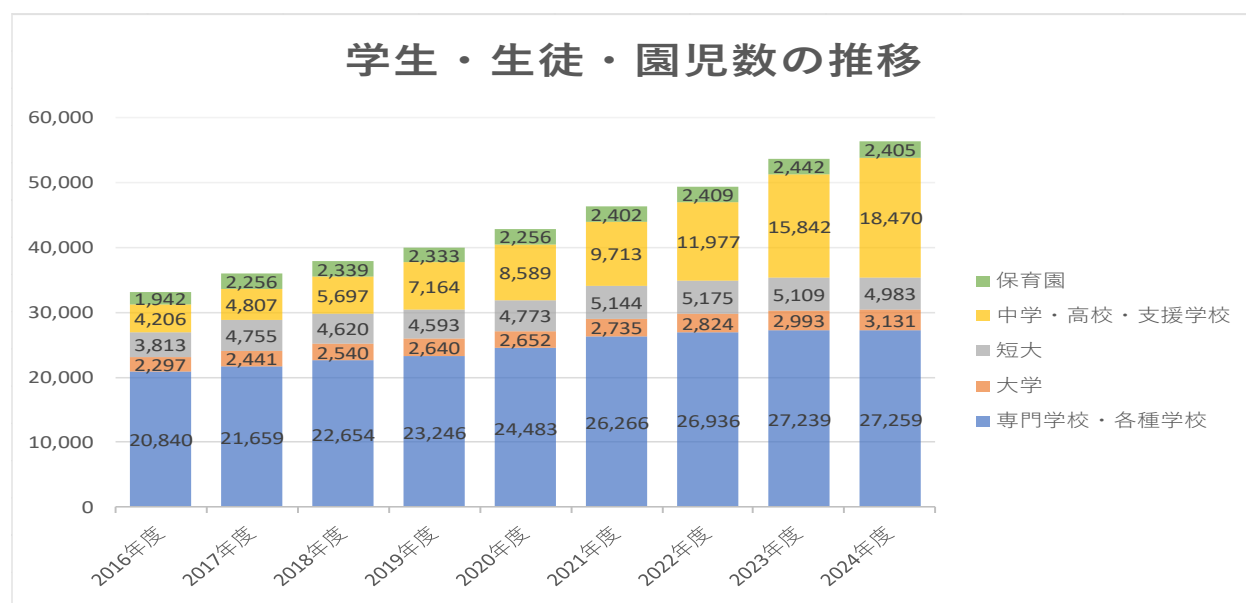
(単位：人)

課程名	入学定員	収容定員	在籍数
日本語教育課程	55	100	9

⑦ 保育園

(単位：人)

種類	園数	入園定員	在籍数
認可保育園	23	1,605	1,511
認証保育園	16	540	466
スポーツ保育園	4	546	465
合計	43	2,691	2,442



※各年度5月1日時点の数値、2024年度は参考。

4. 役員・評議員・教職員の概要

2024年3月31日現在の役員および評議員ならびに教職員の概要は次の通りです。

【役員】定員数

理事11～13名、監事3名～4名

区分	氏名	区別	摘要
理事長	昼間 一彦	常勤	

理事	鳥居 敏	常勤	東京未来大学、東京未来大学こどもみらい園、モチベーション・マネジメント協会担当
理事	角 山 剛	常勤	東京未来大学長
理事	吉田 眞理	常勤	小田原短期大学長
理事	早崎 祐治	常勤	大宮・高崎・宇都宮・千葉・広島 各地区 地区担当、東京未来大学みらいフリースクール、学園ベトナム現法、SANKO 日本語学校東京・綾瀬、SANKO 留学生サポートセンター、学園総務部、人材開発部、人事・給与制度企画調整室、こども委員会
理事	野崎 幸治	常勤	仙台・登米 各地区 地区担当、チャイルドケア事業部、事業開発部、仙台高等支援、特例中学校・児童発達支援センター設立準備室、MS、BA 各委員会、フリースクール小委員会
理事	村田 映子	常勤	東京・大阪・神戸・奈良・各地区 地区担当、教育開発部、同窓会、WB、SC 各委員会、調理小委員会
理事	森岡 孝之	常勤	福岡・熊本・沖縄 各地区 地区担当、広報部、企画マーケティング部、RS、広報各委員会、AI 小委員会 各担当、BA 委員会副担当
理事	尾崎 克明	常勤	横浜・静岡 各地区 地区担当、高等学校、飛鳥未来きぼう高等学校水戸本校設立準備室、小田原短期大学、栄養小委員会 各担当、仙台高等支援 副担当
理事	古田土 満	非常勤・学外者	公認会計士、税理士法人代表社員
理事	細田 英明	非常勤・学外者	弁護士
理事	佐々木 修	非常勤・学外者	弁護士
監事	齋藤 章三	常勤	
監事	奈須 喜代志	常勤	
監事	伯母 治之	非常勤・学外者	弁護士
監事	石川 淳子	非常勤・学外者	税理士

【評議員】

定員数 25 名～27 名

氏名	主な現職等	氏名	主な現職等
昼間 一彦	理事長	鶴田 勇樹	法人職員
鳥居 敏	理事	所 慎	法人職員
角 山 剛	理事・東京未来大学長	前田 孝治	法人職員
吉田 眞理	理事・小田原短期大学長	飯島 英和	法人職員

早崎 祐治	理事	村田 映子	理事・卒業生
野崎 幸治	理事	高橋 夕子	法人職員・卒業生
森岡 孝之	理事	篠原 陽子	元設置校学校長
尾崎 克明	理事	萩原 知子	設置校学校長
上 野 剛	法人職員	増田 泰朗	設置校学校長
山内 陽介	法人職員	古淵 泰弘	設置校学校長
小海 勝正	法人職員	伊藤 新一	元設置校学校長
前川 祐一	法人職員	干場 耕司	税理士
會田 隆太	法人職員	福岡 みつゑ	税理士
稲毛 耕	法人職員		

【教職員】

(単位：人)

区分	種類	人数	区分	種類	人数
教員	本務	2,160	職員	本 務	1,472
	兼務	2,313		兼 務	364

※平均年齢 教員 42.0 歳 職員 34.4 歳

Ⅱ．事業の概要

1. 募集活動

募集活動につきましては、広報活動を一層強化し、2023年度の入学者数は以下の通りとなりました。

【分野別入学者数の推移】

(単位：人)

分野		2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
大学	通学	402	394	396	373	398	419
	通信	1,643	1,011	1,174	1,214	1,332	1,375
短大	通学	200	189	205	202	183	140
	通信	2,180	2,355	2,424	2,424	2,483	2,246
専門学校・各種学校		12,038	13,017	13,430	13,712	14,085	13,838
高校・支援学校		3,861	4,951	4,702	6,502	8,544	8,476
中学校		—	—	—	—	—	26
合計		20,324	21,917	22,331	24,427	27,025	26,520

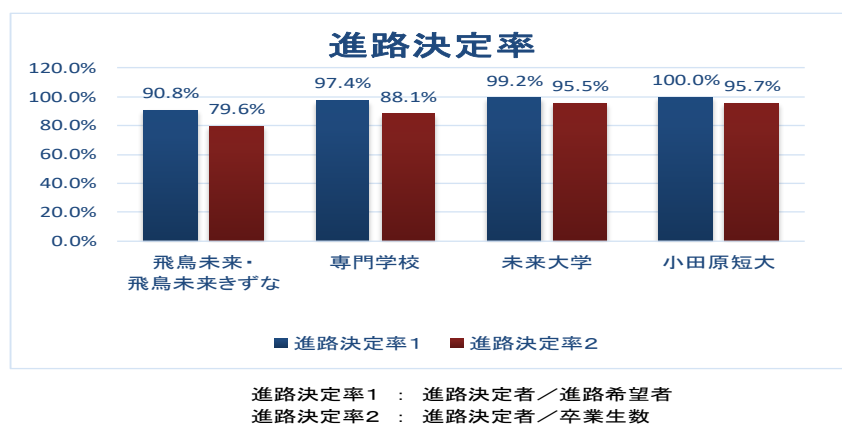
※各年度5月1日時点の数値。2024年度は参考。

※大学・通信の入学者数には、前年度秋入学、当年度春入学、編入学・転入学、科目履修生が含まれます。高校の入学者数は、前年度5月から当年度4月までの入学となります。

2. 進路決定率

本学園では、全設置校に担任教員やキャンパスアドバイザー（大学）を配置し、生徒等の進路決定について全面的にサポートをしています。また、卒業後のフォローアップについても、同窓会組織との連携をはかり、卒業生に対して子育て支援、就職・転職、スキルアップ支援など、卒業生のライフイベントに合わせた様々な支援を行っています。飛鳥未来高等学校、飛鳥未来きずな高等学校の進路決定率は、90.8%、進学率も67.5%と通信制高等学校としては高い水準を維持しています。専門学校各校については進路決定率97.4%、東京未来大学については進路決定率99.2%、小田原短期大学については進路決定率100.0%となっています。

※本文での進路決定率は、進路希望者の進路決定者となります。



3. 教育環境の整備

2023年度においては、土地関連支出2,230百万円、建物建築関連支出10,437百万円、設備・備品関連支出738百万円、修繕等273百万円、計13,678百万円の教育環境の設備を実施致しました。

(単位：百万円)

項目	金額
土地関連支出	2,230
建物建築関連支出	10,437
設備・備品関連支出	738
修繕等	273
計	13,678

4. 教育改革・学生支援

(1) 教育体系の再構築 ～三幸学園の原点『あきらめない教育』

1985年3月に法人が設立され、専門学校運営を中心に『技能と心の調和』を教育理念として、20万人を超える卒業生を社会に輩出してきました。教育・社会貢献機能を通じて『人を活かし、困難を希望に変える』というミッションの実現に向け、本学園が創立時から歩み育んできた教育理念、教育の原点『あきらめない教育』を明文化し、教職員のみならず、学生、保護者の方々に対し発信しています。

(2) 担任指導教員の導入および担任配置の工夫によるきめ細やかな学生指導

本学園の専門学校では全校でクラス担任制をとり、専門的分野の学習にとどまらず、行事等を通じて、全員が主体性を持って成長できるクラスを目指しています。クラスを運営する担任の中でも若手教員にはベテラン教員を担任指導者として配置することにより、若手教員の育成および生徒へのきめ細やかな指導に注力しています。担任配置の工夫として『チーム担任制』を選択肢に加え、クラス状況に合わせた学生指導を行っています。

また、東京未来大学では、ひとりの学生の成長を複数の教職員で見守り支える、独自のサポート制度を設けており、キャンパスアドバイザーが、学生一人ひとりの学生生活を入学から卒業まで全面的にサポートしています。履修相談、各種事務手続、学業と生活の両立などについてもスタッフがきめ細やかなサポートを実施しています。

(3) 入学前保護者会・初年次教育の充実

①入学前保護者会

学生生活をサポートする上で、保護者の方々のご理解・ご協力が非常に重要であると考え、連携強化を目的とし、新入生の保護者の方々を対象に保護者会を実施しています。

2020年度以降、新型コロナウイルス感染防止対策の一環として、オンラインで保護者会を実施するなどの工夫をした結果、約8割の方々にご参加いただいています。

②初年次教育の充実

入学前オリエンテーション『スタートアッププログラム』では、下記の点を目的とし、学生間の交流を図りつつ学生生活をより具体的にイメージできる研修を行っています。

- ・ 好ましい友人関係の構築
- ・ 学校生活における目標設定
- ・ 学校生活におけるマナーとルールの習得



(4) 心の教育「未来デザインプログラム」の実施

本学のオリジナルカリキュラム『未来デザインプログラム』を作成し、社会人に必要な考え方（社会人基礎力）・行動習慣について、一週間に1時間、1年間にわたり授業を実施しています。更にリゾート&スポーツ専門学校ならびにこども専門学校では、モチベーション・マネジメント協会が開発した、日本初のモチベーション資格『公認モチベーション・マネジャー』をベースにしたプログラムを『未来デザインプログラムⅡ』として活用し、社会で直面する課題を主体的に乗り越える方法を2年次に授業として実施しています。

(5) アクティブラーニング(AL)の強化

本学園では、学生が能動的に学習するスタイルであるALを全校で推進・強化すべく、各校教務主担当者を対象に研修を実施するなど取り組んでいます。また、専門学校分野では、ALを活用した授業力向上を図るため、学内の知見を集約した『授業実践ガイドブック』を作成し、教員向けeラーニングコンテンツとしても発信し、各教員が自己研鑽を図れる環境の構築に取り組んでいます。

(6) 学生アンケートの実施および活用の強化

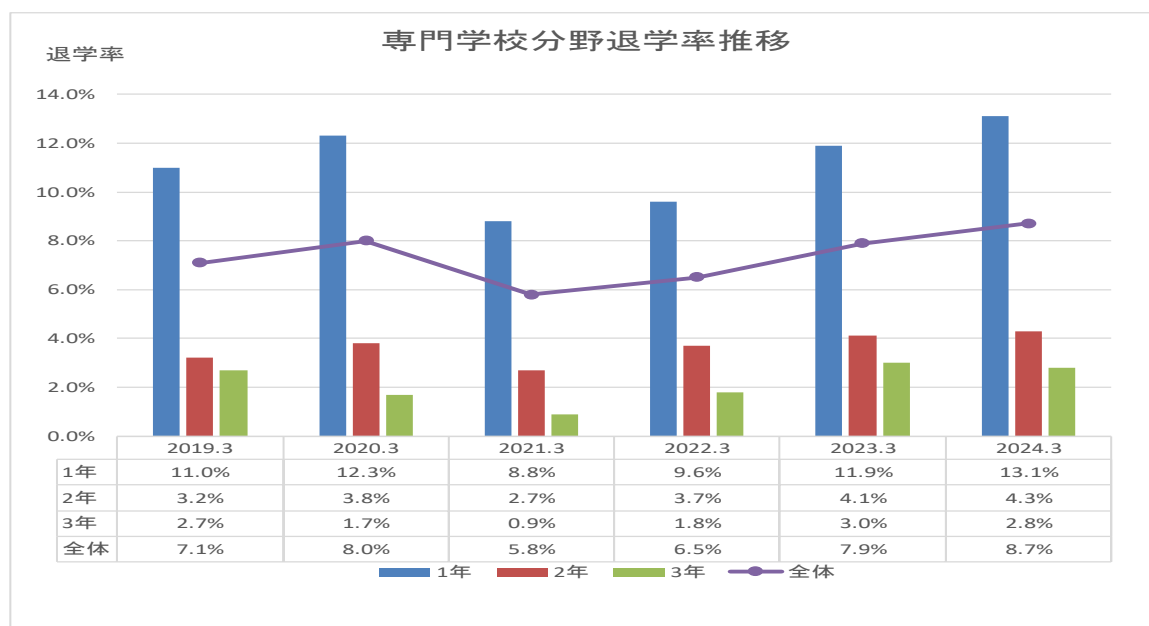
本学園では、学生を対象に授業や学校生活について各種アンケートを実施しています。このアンケート結果を今後の教育活動に活かすべく、分析・調査を行っています。

(7) 退学率低減への挑戦

生徒を取巻く環境は様々で、経済環境の悪化、人間関係の悪化、心身の急激変化などにより休学・退学を余儀なくされるケースが少なからずあります。本学園では、学生・生徒が安心して修学し、学生生活をエンジョイした上で社会へ羽ばたいていけるよう、2013年度より、専門学校退学率低減に向けたプロジェクトチームを結成し、休学・退学に至った原因の把握と環境改善に積極的に取り組んでいます。

2023年度における本学園が設置する専門学校の退学率は8.7%となり、前年度と比較して0.8ポイント悪化しましたが、2024年度は上記(1)～(6)の実施を強化し、引き続き退学率の低減を目指して参ります。

なお、東京未来大学は2.0%（除く通信）、小田原短期大学は6.0%（除く通信）、飛鳥未来高等学校5.6%、飛鳥未来さずな高等学校5.4%の退学率となっています。



(8) 同窓会組織の再構築

本学園では、法人設立以来、20万人を超える卒業生を社会に輩出し、多くの現場で活躍して頂いています。卒業生、在校生のコミュニティ活性化を目的に、2014年4月より専用ホームページ『Sankou Link』を立ち上げ、近年は公式LINEやInstagramでの情報発信も活発に行っています。これらを卒業生情報の提供や卒業生間のコミュニティの場として活用することで、各校で行われる同窓会イベントに参加する卒業生も増加しました。

(9) 卒業生支援

2018年度から卒業生の独立支援を目的として「卒業生支援特定資産」を積立し、起業する卒業生に対し充実した支援制度を設けております。2023年度も卒業生5名に対して独立支援を実施し、制度制定以来延べ13人に支援を実施して参りました。

(10) 学校行事の充実

本学園では、年間を通じて様々な行事を行っています。それは単なるイベントではなく、本学園の教育理念『技能と心の調和』の達成に向けて、集団行動の中で目標に向けて努力し、達成した感動を共有することで、生徒一人ひとりを大きく成長させる機会と考えているためです。



①専門学校全体

～ 三幸フェスティバル ～

三幸フェスティバル（三フェス）は、専門学校、大学の全てで実施されており、本学園最大で最盛況となる行事です。参加者は地域によっては最大7,000名におよび、各校有志で実行委員会が組織され、顔も知らない生徒同士が協同し、三フェスの成功に向けて生徒一人ひとりが主体的に努力しています。パフォーマンス、各種競技など、内容は多種様々ですが、フェスティバルの最後にむかえる全校生徒による「フィナーレ」は、参加している生徒、保護者、会場にいる全てに大きな感動を与えています。生徒はこれらの体験を通じて大きく成長することができます。2022年度はコロナ禍において、地域・学校単位での開催となりましたが、2023年度はアフターコロナでの三フェス開催となり、コロナ前の熱気ある行事を再び実現させることができました。



②医療秘書専門学校

～ 医療事務シミュレーションコンテスト ～

「医事業務実践」等の授業にて、日々学習の中で対応力を学び、その成果披露の場として「シミュレーションコンテスト」を実施しています。医療現場を想定し、多々起こり得る医療現場での対応を実践形式で披露します。表情、話し方、電話対応、クレーム対応や医療事務として学んだ保険・医学知識を活かした患者様等の状況に応じた臨機応変な対応力向上を目指しています。実践対応力が向上することで就職後即戦力としてあらゆる場面で活躍できる人材を育成するための行事です。

また、スケールメリットを活かし、2024年度から全国大会として実施し、学生の更なる成長の場を作っていきます。



③リゾート&スポーツ専門学校、スポーツ&メディカル専門学校
～ スポーツデザインコンペティション ～

日頃の学びを通して培ったスポーツ、ヘルスケアに関わる「知識・技術」「アイディア」「パフォーマンス」等の学びの成果を実践的にデザインした上、アウトプットし、その内容をコンテスト形式で競い合う学校行事です。2023年度は「学びの連動科目披露」「ボディメイクコンテスト」の二部制とし、実践・実技のパフォーマンスを中心に観覧者も楽しみ学びになる、活気あふれる行事となりました。



④ビューティーアート専門学校
～ ビューティーショー ～

これまで学び習得した美容技術、センス、想像力等すべてを注ぎ込む学びの集大成となる大舞台です。

学生の中から選ばれた実行委員を中心に、企画立案からモデルウォーク、ヘア・メイク・ネイル、衣装、脚本、振付、音響、照明まで、すべてを生徒自身がトータルプロデュースする行事であり、準備期間に3か月程を費やしています。

このビューティーショーは毎年、在校生だけでなく、多くの保護者や高校生にもご観覧いただいています。

練習の成果や生徒と先生の想いが結集される感動のフィナーレシーンは大きな見どころです。



⑤こども専門学校

～ 保育発表会 ～

地域の保育園、幼稚園、一般のご家庭より招待した子ども達に、劇・歌・合奏などを披露する行事です。半年以上かけて、実行委員が中心となり、授業や実習で学んだ知識や技術を活かし、子ども達の笑顔のために全校生徒が一丸となって取り組んでいます。子ども達と舞台上の生徒と一緒に歌ったり、踊ったり、掛け合いしながら、沢山の笑顔と歓声が会場内にあふれるイベントを実施しました。



⑥ウェディング&ブライダル専門学校・ブライダル&ホテル観光専門学校

・ビューティー&ブライダル専門学校

～ ウェディングプロデュース ～

授業で学んだ知識と技術の集大成として、一般公募の中から選ばせていただいた新郎新婦様の結婚式をプロデュースします。最初のお打ち合わせから当日の施行まで全て生徒がサポートします。本物の新郎新婦の熱い気持ちを支え、一緒に形にすることで、プロとしての自覚に目覚めることができる貴重な経験となります。



⑦スイーツ&カフェ専門学校、辻学園調理・製菓専門学校、辻学園栄養専門学校

～全国スイーツ&カフェコンテスト～

全国同分野の姉妹校代表生徒による製菓・調理・パリスタのコンテストです。製菓・調理の基礎技術を争うベーシック部門、想像力と味の再現性を競うフリー部門、パリスタ部門の計5部門があります。各校にて予選会を実施し、代表生徒1名が全国大会に出場し、専門技術と共に就職後社会でも通用する実践力を発揮しています。審査員は各業界を代表する方々にご依頼をすることで、プロ目線で評価され、目的意識醸成の機会となっています。



⑧東京未来大学

～ MIRAI FES. 2023 ～

MIRAI FES. は、4日間連続のプロジェクトとして実施しました。この「MIRAI FES. 2023」ではテーマを「CLAP!ー挑戦のその先へー」とし、MIRAI FES.を通して喜びも悲しみもみんなに分ち合い、一人ひとりにとってさらなる成長を遂げ、挑戦したからこそ見ることのできる景色を感じようという意味を込めました。



DAY1・2（10月28日・29日）の文化祭部門では各クラスにて出展・出店を行い、DAY3（10月31日）の体育祭部門では競技、応援団による演舞、各チームのパフォーマンスを披露しました。2023年度は新型コロナウイルス感染拡大による制限を撤廃し、文化祭部門では飲食の出展・出店を復活させることができました。

前年度と同様、参加コンテンツを学生自身が選択し、自分の伸ばしたい力を伸ばすプロジェクトとして、活動を行いました。

⑨小田原短期大学

～ 小峰祭 ～

小峰祭は、「地域の皆さまとの交流、学習成果の発表、学生の主体的な活動、広く皆さまに小田短を知ってもらう」ことを目的として開催しています。2023年度は「創ろう ～響けみんなの笑い声～」をテーマに、食物栄養学科・保育学科の学科企画によるレストランや子どもの室内あそびコーナーなどの出店、保育に活かすタオルあそびとパネルシアター、お笑いライブを実施しました。また、後夜祭ではクラス対抗ゲームやこみねっこコンテスト（学生有志によるダンスや歌、コントなどのパフォーマンスコンテスト）を実施し、学園祭は盛況のうちに終了することができました。



⑩飛鳥未来高等学校

～ ハート・グローバル ～

ハート・グローバルは、音楽やパフォーマンスを通じて個々の成長を促し感じる力を育むきっかけを与えることを目的に設立された非営利団体です。「ミュージック・アウトリーチ」と呼ばれるワークショップを通じて、全世界から集まるキャストと一緒にダンス・歌・即興演技などのショーを一日で創り上げる学校行事です。ワークショップでミュージカルを創る中で、ありのままの自分を表現する経験や自分自身を認め肯定する気持ちを育みます。



～ ASUKA 全国文化祭（全国横断イベント） ～

2021年度から、全国の飛鳥未来高校・飛鳥未来きずな高校の生徒がキャンパスの枠を越えて参加する全国横断イベントを開催しています。2023年度は2022年度から引き続き、全国の新たな仲間とのつながりの創出や自己表現をする楽しさや喜びの醸成を目的とし、「ASUKA 全国文化祭」をメタバース空間で開催しました。事前に募集したイラストやダンスなどの作品の表彰式のほか、eスポーツ大会やクイズ大会なども実施し、全国のキャンパスから350名以上の生徒が参加しました。メタバース上という非日常体験の中で離れた地域の生徒同士が交流を深め、新たな教育機会を創出する取り組みとなりました。



⑪キッズ大陸

キッズ大陸4園合同サッカー大会

～第5回サッカーチャンピオンズカップ～

キッズ大陸4園で統一スポーツプログラムとし、実施しているサッカープログラムの成果発表の機会として年に一度、一堂に会して開催しています。本学園のスケールメリットを活かし、リゾート＆スポーツ専門学校の生徒も大会運営に参加しました。



5. 社会貢献

(1) 東京未来大学

①こどもみらい園

2014年7月に開園した「こどもみらい園」(発達に悩みを抱える子どもの才能や長所を伸ばすイノベーションスクール)では、2016年より学習支援教室も開始しています。発達支援では、個別指導中心から集団での社会生活に慣れるためのソーシャルスキルトレーニング、運動、アートや【発達支援×プログラミング】といった切り口で東京メトロ株式会社様と連携をしたプログラム等を行っています。発達に悩みを抱える子ども達が、「主体的に輝ける」を第一に考え実践しています。



②こどもみらい祭

地域連携推進委員会が中心となり足立区内の近隣在住の方が参加いただける「こどもみらい祭」を7月22日(土)に開催しました。近隣の小学校と連携し事前に作品を作りイベント当日に販売を行いました。小学校との連携以外にも制作体験やワークショップ、体験型のゲームブース等の企画や、学外の方と共にシャボン玉とアートの体験や学生考案のパン販売も実施し、当日は約1,000人の方にご来場いただき、楽しんでいただきました。



③クリスマスフェスタ

地域連携推進委員会が中心となり足立区内およびその近郊在住の方が参加いただける「クリスマスフェスタ」を12月9日(土)に開催しました。学生劇やバルーンショー、学外の方と共に行うパン販売を行いました。その他、体験企画としてはクイズやお化け屋敷、



クリスマスにちなんだメッセージカードの作成も実施しました。学生も来場者もサンタ帽をかぶり、クリスマス感溢れるイベントとなりました。

(2) 小田原短期大学

①子育て支援センターの運営

2021年度から小田原市の指定管理による「おだびよ子育てセンター」を運営しています。小田原駅直結の総合施設「ミナカ小田原」6階にて地域の乳幼児やその保護者が安心して楽しめる子育て支援センターで、図書館と併設した複合施設です。



②通信教育スクール：千歳・登米・延岡・名護・宮古（スクーリング会場のみ：横浜関内）

各自治体と協定を締結し、通信教育によるスクーリング施設を設置しています。学生は幼稚園教諭2種免許や保育士資格の取得を目指し通信教育による自宅学習を行い、対面で必要な授業を各地域に設置されたスクーリング会場において学習しています。2024年4月から新たに沖縄県名護市と協定を締結してスクールを設置し、横浜関内にスクーリング会場を設置しました。



③小田原市との連携協定およびSDGsパートナーシップ

協定の締結やおだわらSDGsパートナー、小田原市女性活躍推進優良企業の認定など、小田原市と人材育成・学術の向上を図り、地域の発展に寄与することを目的として、協定を締結するとともに、地域貢献に努めています。



④乳幼児研究所

小田原短期大学が設置する乳幼児研究所で小田原市の要請を受け、小田原市幼児教育アドバイザー事業を受託しています。また、乳幼児研究所の研究活動として、「ペアレント・トレーニング」「絵本プロジェクト」「現職保育者研究会」「支援教育実践研究会」「小児衛生研究会」「幼児教室」など地域の専門職や一般の方と様々な研究・研修活動を行っています。



(3) 飛鳥未来高等学校・飛鳥未来きずな高等学校

①総合探究SDG sについて考える

～ 総合探究の応用授業を利用したSDG sへの取り組み ～

総合探究でSDG sについて学び探究していきました。SDG sについて触れることで身近な社会問題や、社会全体が抱えている課題について考え、持続可能な活動について自身でできることについて議論を深めました。また、生徒は課題に対して自分で選択するため、主体的に活動することができました。



②SDG s ジェンダー教育の授業について

「ミュータントウェーブ」様を講師として招いてのジェンダー教育を行いました。ジェンダーについて理解するとともに、「自分らしさ」をもって過ごすことの大切さを学ぶことを目的とし活発な意見交換を行いました。日本女子サッカーリーグ（なでしこリーグ）で活躍していた元選手で現在は男性として生きるトランスジェンダーの3名の方より特別講話をしていただきました。3DAY 1年生を対象にHRを利用して実施し、トランスジェンダーをきっかけに、ものの見方や考え方、自分らしさを学ぶ機会として授業を行いました。

③ウクライナ避難民学生と高校生の交流会

～ 飛鳥未来高校・飛鳥未来きずな高校・日本語学校 合同開催 ～

第1回：高校生×ウクライナ人学生との交流会

SANKO日本語学校東京で学習支援をしているウクライナ避難民の学生と高校生とで、平和について考える交流会を実施しました。2部構成で行い、第1部はウクライナ人学生から、ウクライナの現状やウクライナ文化についての講演を受け、第2部は高校生との座談会を実施しました。第1部はアーカイブ化しSANKO Gateを介して各キャンパス在校生向け学習教材として視聴可能にしました。



第2回：高校生×日本語学校留学生交流会

高校生が主体となって考えた日本の遊び、ゲームなどを活用して留学生と一緒に活動し、国際交流の機会、国際文化理解の教育機会としました。活動をきっかけに言語の壁を越えた国際交流をすることができ、相互の文化を体験することで生徒間での異文化交流を図ることが出来ました。

(4) フリースクール

不登校児童生徒数は年々増加傾向にあり深刻な社会問題となっています。三幸学園では、児童生徒が自らの進路を主体的に捉え社会的に自立することを目指し、全国8拠点に小学4年生から中学3年生を対象にしたフリースクールを展開しています。行事や課外活動、姉妹校の専門学校へ職業体験として訪問するなど、自主性や好奇心を育む活動を取り入れ、一人ひとりのペースに寄り添い、サポートしていきます。進路指導にも力を入れており、多くの卒業生が希望の進学先を果たし、活躍しています。



(5) 支援学校 仙台みらい高等学園

～ 「ワークライフブレンド」の実現 ～

開校3年目を終え、本科17人（一般就労/障害者雇用16人、就労継続支援B型1人）、専攻科6人（一般就労/障害者雇用6人）の卒業・修了生を輩出し、この春から地域の様々な企業で活躍しています。

2023年度は三幸学園の教育理念である「技能と心の調和」を基に、卒業後における生徒の生活の質が向上することを目指し、スクールポリシーを策定しました。部活動において部活動指導員を取り入れた活動を進め、余暇活動・地域移行支援の充実を図りました。

専門家や熟練者の指導を受けることで、生徒がより専門的な知識・技術を身に付け、更なる心と体の成長の機会を提供するとともに、教職員の働き方改革も実現させることが可能となりました。また、部活動指導員やその他地域支援団体等と連携することで、各生徒の週末や長期休暇、卒業後の活動の幅が広がり、学校外でのコミュニティや居場所、仲間作りの実現にもつながっています。

2023年度の連携や実績を基に、2024年度は部活動を完全地域移行とし、地域で活動する団体との連携を更に強め、仕事だけではなく、スポーツや文化活動でも活躍できる人材の育成に努めます。



(6) 事業開発部

～ 「みらいドローンスクール」「ブカツゼミ」の展開でリカレント教育を推進 ～

人生100年時代では一人ひとりのキャリア選択や、キャリアに応じた技能獲得機会の提供が重要であると考えられています。このような時代の要請に応えるため、「みらいドローンスクール」「ブカツゼミ」の運営・展開を進めることで、三幸学園としてリカレント教育を提供しています。

① 「みらいドローンスクール」における無人航空機操縦士養成事業

国は「空の産業革命」という枠組みの中、ドローンを新たなモビリティとしてこれまでの空撮に留まらず、建築業界や土木業界、配送業界、測量や災害対応などでドローンの活用を積極的に推進しています。

その一環として2022年12月から「無人航空機操縦者技能証明等」の制度が施行され、無人航空機（ドローン）を飛行させるために必要な技能（知識及び能力）を有することを証明する資格制度で、「一等無人航空機操縦士」と「二等無人航空機操縦士」の2つの国家資格が制定されました。

本学では国土交通省が認定する登録講習機関として「みらいドローンスクール」を設立し、ドローン国家資格である「一等・二等無人航空機操縦士」を取得するための基本講習や各種限定変更（目視外・夜間）の講習を展開しています。

本学での職業教育、専門人材育成の知見を活かし、自治体や関連団体と連携した付加価値の高い講習を展開することで今後の社会が求める「航空業務を担うドローン専門人材の育成」を推進していきます。



② 「ブカツゼミ」を通した部活動支援事業

教員の働き方改革の観点から運動部活動に対する専門スタッフの関わりや地域部活動への移行が学校教育の喫緊の課題となっている中、当学園のスポーツ人材養成ノウハウを活用し、2018年から文部科学省委託事業として「部活動指導員養成事業」（主幹校：東京リゾート&スポーツ専門学校）に取り組み、リカレント教育のためのeラーニング教材「ブカツゼミ」を開発しました。

プログラムは「教育」「安全管理」「指導法」「マネジメント」の分野で構成されており、教育現場の部活動・地域でのスポーツ活動に携わる上で重要な基礎知識の習得を主眼としています。

また文部科学省が明示した2023年度以降の休日部活動指導の段階的な地域・民間への移行方針に伴い、今年度は受講方法やシステムの体系化を構築していきましました。

2022年度から本学リゾート&スポーツ専門学校への新たな学習機会として提供し、今年度からは部活動支援事業に関わる団体や一般事業者へ「ブカツゼミ」の紹介・普及を進めてきました。今後におきましても関係団体・事業者との連携を図り、社会が求めるリカレント教育を進めていきます。



～ブカツゼミ紹介動画～

(7) SANKO留学生サポートセンター

政府の留学生受け入れの方針を受けて、増加する留学生に関する様々なサポートを強化するために2020年5月にSANKO留学生サポートセンターを開設しました。

主な取り組みとしては、①留学生へのビザ更新等の事務サポート、②留学生へのタイムリーな情報提供、③国内外における留学生の募集活動、④日本語力向上やJLPT等資格取得のための教育サポート、⑤2019年度に登録支援機関として登録したことによる在学時から卒業・就職のサポートを強化し、就労後の留学生への継続した支援を行い、日本の労働力不足問題に対して取り組んでいきます。

(8) Sanko Gakuen International

SGIでは、海外の大学や短期大学で学ぶ学生に向けたキャリア形成の一環としてインターンシップ事業に取り組みました。在留資格「特定活動(告示9号)」のガイドラインに沿って、2023年度はベトナムから32名、ネパールから12名のインターンシップ生を受け入れました。約一年間、日本での就労体験を積むことで、学生たちは卒業後の進路に明確な目標を持って日々の実務と日本語力の向上に取り組んでいます。また、受入れ企業にとっても、就労体験の場を提供することで、将来は「特定技能生」としての採用を見据えた新しい形での海外人材採用を模索する機会となっています。

今後はSANKO留学生サポートセンターとの連携を図り、間近に迫る日本国内の労働力不足解消の有効な手段のひとつとして、新たにフィリピン・タイ・ミャンマー・台湾の高等教育機関との提携を進めていきます。

6. 運営

(1) 産学連携と職業実践専門課程への取り組み

本学園では、企業様との連携により実務に関する知識、技能・技術を享受し、職業に必要な実践かつ専門的な能力育成のため、各分野で様々な産学連携プロジェクトを実施しています。

また、産学連携以外にも業界の企業様や業界団体様の専門家で構成された『教育課程編成委員会』を設置し、各分野のカリキュラムや教育活動を討議・編成し、社会の要請に応えた実践的な職業教育を実施しています。2013年に施行された『職業実践専門課程』は、最新の実務知識・技術・技能を身につけられる実践的な職業教育に取り組む学科の課程認定制度です。2022年度までに52校82学科が認定されました。2023年度に於いても、生徒等の習学の質的向上を図るため、設置校全校で当該認定の取得を目指していくとともに、更に産学連携の強化・推進を図っていきます。

【医科校】(職業実践専門課程)

協力医療機関において、1年次1週間、2年次3週間、計4週間に渡り医療機関実習を実施しています。医療現場において実践的な技術の習得と医療従事者に求められる適切な行

動・責任感の習得を目的とし、実習期間中は、担当教員が当該医療機関を訪問し、予め目標設定した①実務能力・応用力、②医療現場で必要とされるマナー・人間関係構築能力、③勤務態度や患者への接遇能力、について協力医療機関と確認・情報交換がなされ、現場の声に基づいた人材育成を実施しています。

【リゾート&スポーツ校】（産学連携）

全国に多数のスポーツクラブを運営する企業様や各地域のプロスポーツ団体様と提携し、学び甲斐と実践力を高める教育プログラムを展開しています。特に総合演習という科目においては、学校施設等を利用し地域住民の方々に向けてトレーニングプログラムの提供やスタジオエクササイズ等を披露する実践機会を積極的に展開してきました。実際のお客さまに対し実践する機会を通し、知識や技術だけではなく相手に合わせたプログラムの提供や接し方などのコーチングスキルの重要性を再認識することができました。引き続き学びのアウトプットができる機会を積極的に設け、実践力を強化すると共に地域社会に貢献できる学校創りを志していきます。



【こども校】（職業実践専門課程）

1年次の2月以降から児童福祉施設（保育園や乳児院など）にて『保育実習』を行います。10日間（80時間）の実習を計3回行い、3回目の実習では子ども達が登園してから降園するまでの1日全てを任せられる実践的な実習を行っています。



【ウェディング&ブライダル校】（産学連携）

全国各地に式場を展開されている企業様と連携し、今後、ブライダル業界で活躍できる人材を目指して、発想力・提案力・問題解決力を醸成することを目的として、「ブライダル業界への新たなウェディングプラン」をプレゼンテーションするプログラムを展開しました。企業様に審査員も務めていただき、総評をいただくことで、より現場に即した力を身に付けることができる貴重な機会となっています。



【スイーツ&カフェ校】（産学連携）

各地域の企業様と職業教育提携を結び、企業様のテーマや地域の課題のために、商品開発プレゼンテーションを実施し、毎年、生徒主体にてメニュー考案に取り組んでいます。過去には、プロントコーポレーション様、J A様、そごう様、富士コーヒー様とタイアップし、テーマや原価、オペレーションなど含めた企業様の厳正な審査を経て、商品化に向けて取り組んできました。

今年度はJ A様とのタイアップで、「グリルみのるエスパル仙台店」「みのりカフェエスパル仙台店」において、「仙台スイーツ&カフェ専門学校」とのコラボレーション企画を実施し、一般消費者への東北産の食材のPR・品目の理解の促進を図りました。



【東京未来大学】（産学連携・職業実践専門課程）

2023年11月4日（土）に「千住まち歩きマップ」作成プロジェクトを実施しました。北千住駅周辺の空き家や古民家を再生した施設などを記したマップ作成を森下研究室と足立区の生涯学習センターとの共同プロジェクトとして行いました。そのマップを実際に使いながら地域の方と一緒に「まち歩き」を行い、学生を含めた様々な年代の方と交流を深めることができました。



【小田原短期大学】（産学連携）

① 小田急小田原駅とのイベント開催

本学の学生と小田急小田原駅の若手社員が発案したイベント「おだ“たん”×おだ“きゅう”～巡って“探求”小田原駅から出発進行～」を9月に実施しました。学生手作りの改札や景品の紙メダル、プラレールを使った動物探しなど、お子様向けのイベントを実施しました。



② 美食のまち小田原への参画

美食のまち小田原推進協議会へ参画し、小田原ダイナシティで実施された「地場産フェア～小田原産食材の旬を楽しもう～」に参加しました。学生がご来場の皆様へ「小田原の食」についてプレゼンテーションし、小田原産食材を使ってレシピ開発した「ベジフィッシュクレープ」を試食していただきました。



【ぽけっとランド保育園】（専門学校との連携）

こども専門学校の授業の一環（科目：実習指導）として、保育園へ専門学校生が出向き、園児たちにハロウィンパーティーを行いました。

こども主体保育として、個の発達に応じた一人ひとりが楽しむことができる、月齢に適したコーナーあそびを提供しました。これは絵本の世界を題材にした専門学校生手作りの作品で、普段と違う世界で遊ぶ喜びをハロウィンで得ることができるように考えた取り組みとなりました。園児が円滑に小学校と接続できるよう、保育園が教育施設という役割を担うためにも、専門学校との連携を深めて、園児と共に学生も成長する取り組みを積極的に行っていきます。



（２）学校評価の推進

① 専門学校

学校法人の社会的使命を果たすために、専門学校全校で自己評価を実施しています。また学校関係者評価委員会を実施し、保護者・近隣住民の方・高校の先生方・実習及び就職でご協力いただく関連企業様よりご意見をいただきながら、社会への貢献度を高められるよう取り組んできました。なお、これらの評価結果については、報告書にまとめホームページ上でも公表しています。さらに学園全体としての教育プログラムの充実と質的向上を図るため、２０１６年度より設置された教育開発部を中心に各校で実施した自己評価・学校関係者評価の更なる検討・分析を進めています。

② 東京未来大学

東京未来大学では、教育研究の向上を図り、大学の使命・目的等を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検および評価を行うほか、学校教育法第１０９条第２項に規定する認証評価機関（公益財団法人日本高等教育評価機構）による認証評価を受け、その結果を公表しています。当年度は、同機構が定める基準に基づく点検項目に改めて自己評価を実施するとともに、２０２０年度の認証評価結果を踏まえた改善事項に取り組み、それぞれの結果を大学のホームページで広く公表しています。引き続き、教育研究の向上に資する改善活動および内部質保証体制の強化に取り組んでいきます。

（３）児童福祉事業の積極的な推進

本学園の児童福祉事業は、２００８年４月東京都認証保育所の開園以降、２０１２年４月認可保育園「ぽけっとランドあびこ保育園」２０１３年７月にはスポーツ幼児園「キッズ大陸よこはま中川園」を開園（中川園は２０２３年４月に川崎市多摩区へフロンタウン生田園として移転）。２０２４年３月時点で、認可保育園２３園、認証保育園１６園、スポーツ幼児園４園、計４３園の保育施設の運営を行っています。

① ぽけっとランド・こども保育園

ぽけっとランドは、「個を受容し、共感するなかで主体性を育む」を保育理念に掲げ、以下の保育目標のとおり、一人ひとりの個性、発達、能力、思いを大切に保育を行っています。また、園長を中心とした「保育内容検討組織（こども未来会議）」を設置し、保育士の「保育する力」を引き出し、実践に繋げています。一方で、保育士確保が社会問題となっているため、職員の長期就労を目的とした処遇改善や福利厚生の実施を図ってまいります。



2025年4月より、広島こども保育園について、0～2歳をお預かりする小規模保育園から、幼児の定員を新たに設置し、0～5歳をお預かりする保育園として定員を増やす準備を始めます。定員を増やすことで地域のニーズに応えつつ、広島医療秘書こども専門学校との教育連携を強化することで、地域貢献にも寄与します。

【保育目標】

- ・自分の意思・思いを伝えられる子（主体性）
- ・自分で判断し、行動できる子（問題解決能力）
- ・他者の気持ちを感じとれる子（優しさ、思いやり）

② キッズ大陸

キッズ大陸は、東京、埼玉、神奈川で4園の認可外保育施設、1園の認可保育園を展開し、特色のある施設環境の中で、「保育園」「クラブ（習い事）」「学童保育」の3つの分野を通じた一貫教育でお客様の成長をサポートする環境を整えています。「ここは子ども達の可能性が無限に広がる夢大陸！子ども達を大きく大きく成長させたい！！」を教育コンセプトに掲げ、スポーツプログラムを中心に様々な教育プログラムを取り入れ、「やればできる、やったらできた」という成功・達成感を子ども達と共有し、以下の教育目標のとおり、「心技体知」といった心身ともに健康で理想的な成長と、将来の可能性を広げるスポーツ教育コミュニティを目指しています。



【教育目標】

- ・みずから考えて行動できる子ども
- ・素直な心と思いやりのある子ども
- ・チャレンジ精神を持ち、最後までがんばる子ども
- ・明るく元気で、丈夫な身体を持つ子ども

また2019年10月より施行された「幼児教育・保育料無償化」の実施により、入園家庭の間口が広がったことで、子育て支援をはじめ多種多様な教育機会の提供という責務を一層果たしていきます。

Ⅲ．財務の概要

1．2023年度決算

(1) 概要

2023年の日本経済は、コロナ禍を乗り越え、緩やかな回復基調を取り戻しました。ただし、業況や収益など企業部門は好調である一方、これが賃金や投資に十分に結び付かず、内需は力強さを欠いています。その中で、教育機関においては、少子高齢化の加速と新たな時代の要請に応じた教育研究機会を一層拡大し、修学環境の整備と、時代に柔軟に対応できる経営体制・基盤の構築が求められています。

このような状況下において、2024年4月には、東京都足立区に不登校特例校として東京みらい中学校が開校します。

教育環境としては、新校舎に伴う土地関連支出2,230百万円、建物建築関連支出10,437百万円、設備・備品関連支出738百万円、校舎等の修繕等273百万円、計13,678百万円の整備を行いました。

財務面では、生徒数の増加に伴い学生生徒納付金収入等が大きく増収し、事業活動収入合計は前期比2,786百万円増加し過去最高を記録しました。一般企業の経常利益および純利益にあたる教育活動収支差額、基本金組入前当年度収支差額は、各々7,028百万円、8,969百万円となりました。

なお、教育環境の整備を積極的に行った結果、第1号基本金は158,091百万円を組入れています。

今後とも、財務の健全性を確保しつつ、教育環境の改善への資産配分を行い、魅力ある教育の提供と質的向上を図っていきます。

なお、企業会計は正しい損益状況と企業の営業成績および財産状況を説明することを目的として「損益計算書」、「貸借対照表」を作成しますが、学校法人会計は、学校経営における教育研究活動の健全性の程度を財務面から測定し開示することを目的として以下の通り「資金収支計算書」、「事業活動収支計算書」「貸借対照表」を作成します。

(2) 資金収支計算書

資金収支計算書は、当該年度の教育活動およびそれに付随する諸活動に対応する全ての収入に関して、その内容を明らかにし、支払資金の収支の顛末を明らかにするための計算書類です。

当該計算書には、事業活動収支計算書にはない設備投資額や他からの収入などの一切が記録・明記されています。主の要点は以下の通りとなります。

<内容の要点>

① 収入の部

当年度の収入合計は、95,980百万円となり、前年度繰越支払資金33,678百万円を加えた収入の部合計は129,658百万円となりました。

【学生生徒納付金収入】

学生生徒納付金収入は、入学者数の増加から、在籍生徒数が53,625名（前年度比4,304名増加）となり、40,786百万円（前年度比2,245百万円増加）となりました。

【補助金収入】

補助金収入は7,184百万円となりました。今年度の補助金内訳は、大学163百万円、短期大学144百万円、専門学校2,835百万円、高校・支援学校402百万円、保育園3,243百万円となっています。

【資産売却収入】

主に、短期有価証券運用によるものです。

【付随事業・収益事業収入】

付随事業・収益事業収入の合計は4,093百万円となりました。うち附帯事業収入364百万円、受託事業収入211百万円となっています。

【寄付金収入】

一般寄付金収入には、三幸共済会からの寄附金収入107百万円が含まれています。また、特別寄付金収入には、受配者指定寄付金収入81百万円が含まれています。

【前受金収入】

前受金収入は、2023年度の入学金、授業料、施設設備費等の収入を計上しています。2023年度入学者を含む在籍生徒数の増加から、前受金収入は28,592百万円（前年度比979百万円増加）となりました。

【資金収入調整勘定】

当該科目の内訳は、期末未収入金1,037百万円、前期末前受金27,613百万円となっています。

【前年度繰越支払資金】

当該科目は、全て現預金となっています。

② 支出の部

当年度支出の合計は、95,200百万円となり、翌年度繰越支払資金34,458百万円を加えた支出の部合計は129,658百万円となりました。

【人件費支出】

人件費は20,183百万円となり、うち教員人件費は13,677百万円、職員人件費は6,143百万円となっています。

【教育研究経費支出】

教育研究経費は、12,899百万円となりました。うち奨学費として3,675百万円、施設設備の修繕費として273百万円を計上しています。

【管理経費支出】

管理経費は、8,944百万円となりました。うち教職員の研修に係る費用として336百万円が含まれています。

【施設関係支出・設備関係支出】

施設関連支出は12,668百万円となりました。主な内訳は土地支出2,230百万円、建物支出560百万円、建設仮勘定支出9,872百万円となっています。

設備関係支出は、738百万円となりました。主な内訳は教育研究用機器備品支出592百万円、管理用機器備品支出29百万円、図書支出23百万円、ソフトウェア89百万円となっています。

【資産運用支出】

主に短期有価証券の運用にかかる支出となります。内訳は有価証券購入支出として11,641百万円、保険金積立金支出として549百万円、減価償却引当特定資産繰入支出として2,000百万円、認可保育園の人件費等積立金特定資産繰入支出として462百万円の支出がありました。

【資金収支調整勘定】

当該科目の内訳は、前期末前払金53百万円、期末未払金3,524百万円となっています。なお、期末未払金には、当年度2月、3月に発生した教材等の費用が含まれています。

【次年度繰越支払資金】

当該科目は、全て現預金となっています。

【資金収支計算書】

(単位:百万円)

収入の部				支出の部			
科目	予算	決算	差額	科目	予算	決算	差額
学生生徒納付金収入	41,103	40,786	317	人件費支出	20,103	20,183	△ 80
手数料収入	464	513	△ 49	教育研究経費支出	13,296	12,899	397
寄付金収入	186	189	△ 3	管理経費支出	9,086	8,944	142
補助金収入	7,046	7,184	△ 137	借入金等利息支出	6	7	△ 1
国庫補助金収入	283	305	△ 22	借入金等返済支出	988	988	0
地方公共団体補助金収入	4,615	4,665	△ 50	施設関係支出	12,722	12,668	54
その他の補助金収入	2,149	2,214	△ 65	設備関係支出	786	738	48
資産売却収入	11,670	11,273	396	資産運用支出	13,584	14,662	△ 1,078
付随事業・収益事業収入	4,062	4,093	△ 30	その他の支出	25,418	27,689	△ 2,271
受取利息・配当金収入	1,642	1,637	6				
雑収入	312	352	△ 40				
借入金等収入	4,000	4,000	0				
前受金収入	28,116	28,592	△ 476				
その他の収入	23,232	26,013	△ 2,780				
資金収入調整勘定	△ 28,332	△ 28,650	318	資金支出調整勘定	△ 3,152	△ 3,578	426
前年度繰越支払資金	33,678	33,678	0	次年度繰越支払資金	34,343	34,458	△ 115
収入の部合計	127,180	129,658	△ 2,478	支出の部合計	127,180	129,658	△ 2,478

(3) 事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、当該会計年度の3つの活動（教育活動、教育以外の経常的な活動、それ以外の活動）に対応する事業活動収入および事業活動支出の内容を明らかにするとともに、基本金に組み入れる額を控除した会計年度の諸活動に対応する全ての事業活動収入と事業活動支出の均衡状態を示すものです。

＜内容の要点＞

①教育活動収支

教育活動収支は、当該会計年度の経常的な事業活動収支のうち、経常的な財務活動および収益事業に係る活動を控除した活動の収支をあらわしたものです。

教育活動収入合計は、52,671百万円となり、前年度より2,686百万円の増加となりました。主な増収要因は、学生生徒納付金収入が2,245百万円増加によるものです。教育活動支出の合計は、45,643百万円となり、前年度より3,524百万円の増加となりました。主な増加要因は人件費が1,692百万円の増加、教育研究経費が1,106百万円の増加、管理経費が776百万円の増加となっています。

なお、教育活動収入から教育活動支出を控除した教育活動収支差額は7,028百万円となりました。

②教育活動外収支

教育活動外収支は、教育活動以外の経常的な財務活動および収益事業に係る事業活動収入ならびに事業活動支出をあらわしたものです。

受取利息・配当金収入は1,637百万円、為替差益325百万円を計上し、教育活動外収入は前年度より136百万円減少し1,962百万円となりました。教育活動外支出は7百万円となり、教育活動外収入から教育活動外支出を控除した教育活動外収支差額は1,955百万円となりました。

③経常収支差額

経常収支差額は一般企業における経常利益にあたり、学校法人が教育活動を行うにあたり経常的に発生する収入と支出の均衡、事業実態、継続性をあらわしたものです。

経常収支差額は8,983百万円となり、前年度より973百万円減少しました。

④特別収支の部

特別収支は、経常的な事業活動以外に特殊な要因によって発生した事業活動の収支をあらわしたものです。

今年度の特別収入合計は、448百万円となりました。特別支出は有価証券処分差額等の計上から、462百万円となりました。なお、特別収入合計から特別支出合計を控除した特別収支差額は14百万円の支出超過となりました。

⑤基本金組入前当年度収支差額と基本金

学校法人は、教育研究活動を永続的に行う上で必要な資産の更新・拡充のための資金を基本的に自前で調達する必要があるため、これを維持するための財務的な仕組みとして基本金制度があります。基本金組入前当年度収支差額は一般企業の当年度純利益にあたります。ここから毎年度に発生した教育研究維持に必要な資金・基本金を差引き、長期的な収支バランスをみています。

基本金組入前収支差額は8,969百万円となり、前年度より、1,137百万円増加しました。ここから10,326百万円の基本金を組入れした結果、当年度収支差額は1,357百万円の支出超過となりました。

(単位:百万円)

科目等		2023年度予算	2023年度決算	増減	
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	41,103	40,786	317
		手数料	464	513	△ 49
		寄付金	186	189	△ 3
		経常費等補助金	6,648	6,791	△ 143
		国庫補助金	283	305	△ 22
		地方公共団体補助金	4,216	4,272	△ 56
		その他補助金	2,149	2,214	△ 65
		付随事業収入	4,062	4,093	△ 30
		雑収入	260	299	△ 39
		教育活動収入計	52,724	52,671	53
	事業活動支出の部	人件費	20,103	20,152	△ 49
		教育研究経費	16,442	16,227	215
		管理経費	9,313	9,218	95
		徴収不能額等	407	45	361
		教育活動支出計	46,265	45,643	622
教育活動収支差額		6,459	7,028	△ 569	

(単位:百万円)

科目等			2023年度予算	2023年度決算	増減
教育活動外収支	収入の事業活動	受取利息・配当金	1,642	1,637	6
		その他の教育活動外収入	206	325	△ 119
		教育活動外収入計	1,849	1,962	△ 113
	支出の事業活動	借入金等利息	6	7	△ 1
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	6	7	△ 2
	教育活動外収支差額		1,843	1,955	△ 112
	経常収支差額 ※1		8,303	8,983	△ 681
特別収支	収入の事業活動	資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	453	448	5
		特別収入計	453	448	5
	支出の事業活動	資産処分差額	396	430	△ 34
		その他の特別支出	32	32	0
		特別支出計	428	462	△ 34
	特別収支差額		25	△ 14	39
	基本金組入前 当年度収支差額 ※2		8,328	8,969	△ 642
基本金組入額合計		△ 9,781	△ 10,326	545	
当年度収支差額		△ 1,454	△ 1,357	△ 97	
前年度繰越収支差額		△ 5,842	△ 5,842	0	
基本金取崩額		0	25	△ 25	
翌年度繰越収支差額		△ 7,295	△ 7,174	△ 122	
					0
事業活動収入計			55,025	55,081	△ 55
事業活動支出計			46,698	46,112	586

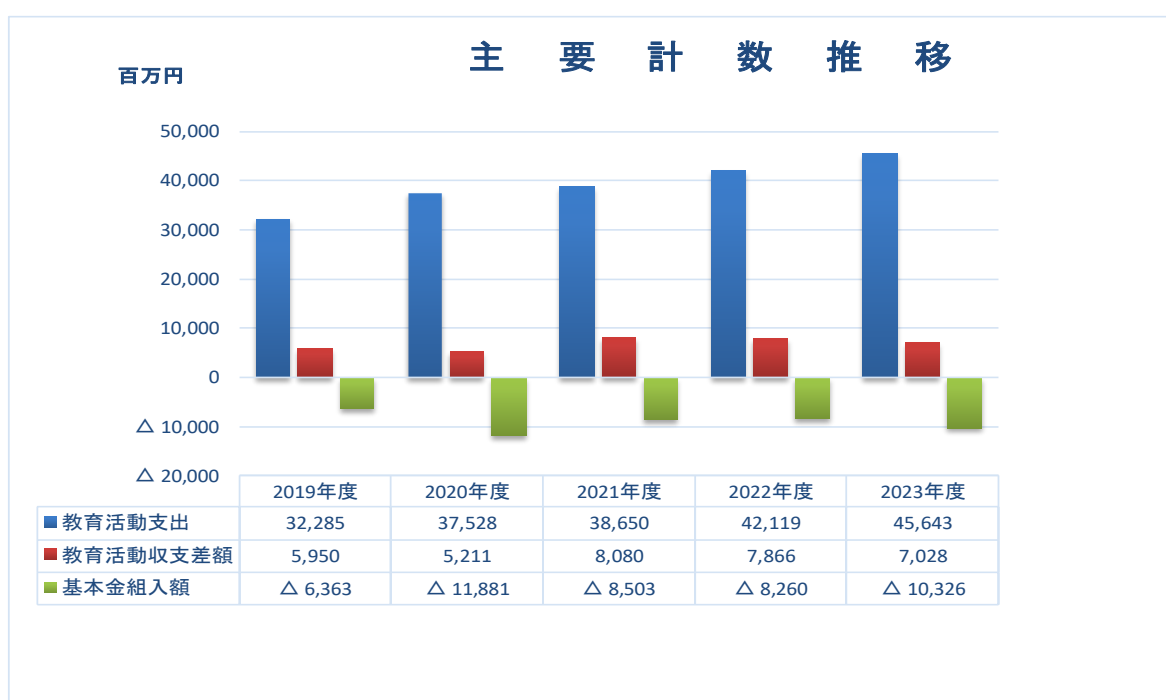
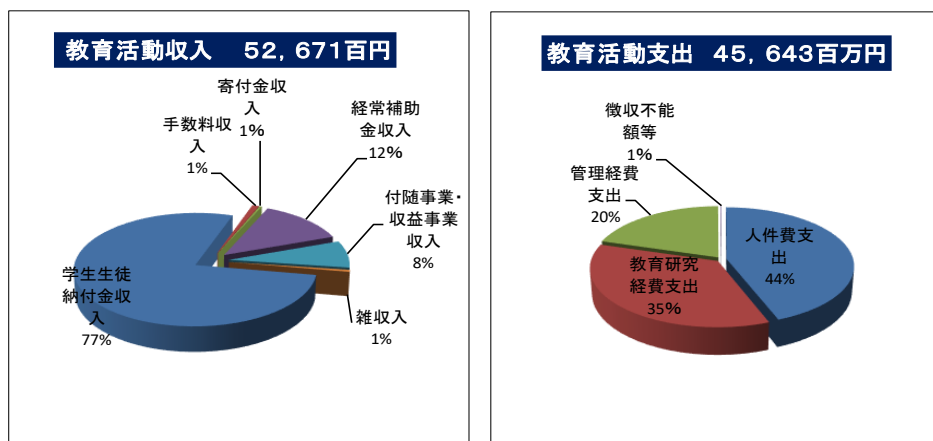
※1 経常収支差額

教育活動収支差額と教育活動外収支差額の合計額を表し、学校法人の経常的な事業活動を表す重要な指標

※2 基本金組入前収支差額

事業活動収入計から事業活動支出計を差引いた数値を表し、学校法人全体の事業活動を表す重要な指標

※3 ※百万円未満は四捨五入



(4) 貸借対照表

貸借対照表は、年度末時点における資産、負債、正味資産（基本金、消費収支差額）の内容、あり高を示し、学校法人の財務状況を明らかにするものです。

① 資産の部

資産の部合計は、196,578百万円となり、前年度より13,248百万円の増加となりました。主な増加要因として、有形固定資産は積極的に教育施設の投資を行った結果9,802百万円増加しました。その他の固定資産は、定期借地権が7百万円減少しましたが、保証金・敷金が226百万円、保険積立金が545百万円増加し、全体で782百万円の減少となりました。流動資産は現預金が780百万円、未収入金が217百万円増加しましたが、有価証券が1,643百万円減少し、全体では807百万円の減少となりました。

② 負債の部

負債の部合計は、42,433百万円となり、前年度より4,279百万円増加となりました。主な内訳として、固定負債は長期借入金等が2,612百万円増加しました。流動負債は、生徒数の増加に伴う前受金収入の増加から1,702百万円増加となりました。

③ 純資産の部

純資産の部は基本金と繰越収支差額で構成されています。基本金は設備投資の増加から第1号基本金が10,029百万円増加しました。第4号基本金は272百万円の増加となり、基本金合計は10,301百万円増加の161,318百万円となりました。繰越収支差額は7,174百万円の支出超過となり、結果、純資産の部は154,144百万円となりました。

【貸借対照表】

■資産の部 (単位:百万円)				■負債の部 (単位:百万円)			
科目	2022年度	2023年度	増減	科目	2022年度	2023年度	増減
固定資産	142,194	156,249	14,054	固定負債	4,429	7,006	2,577
有形固定資産	125,290	135,093	9,802	長期借入金	4,178	6,790	2,612
土地	55,695	57,926	2,231	退職給与引当金	251	216	△ 35
建物	62,979	72,538	9,558	流動負債	33,725	35,427	1,702
備品ほか	6,616	4,629	△ 1,987	短期借入金	988	1,388	400
特定資産	12,178	15,648	3,470	未払金	3,298	3,535	237
その他の固定資産	4,726	5,508	782	前受金	27,613	28,592	979
保険積立金	1,077	1,622	545	その他の流動負債	1,826	1,912	86
その他	3,649	3,886	237				
流動資産	41,135	40,329	△ 806	負債の部合計	38,155	42,433	4,279
現金預金	33,678	34,458	780				
その他の流動資産	7,458	5,871	△ 1,587				
資産の部合計	183,330	196,578	13,248				
				■純資産の部 (単位:百万円)			
				科目	2022年度	2023年度	増減
				第1号基本金	148,062	158,091	10,029
				第4号基本金	2,995	3,227	272
				基本金合計	151,057	161,318	10,301
				翌年度繰越収支差額	△ 5,842	△ 7,174	△ 1,332
				繰越収支差額合計	△ 5,842	△ 7,174	△ 1,332
				純資産の部合計	145,175	154,144	8,969
				負債及び純資産の部合計	183,330	196,578	13,248

※百万円未満は四捨五入

(5) 財産目録（要約）

財産目録【総括】			
(2024年3月31日現在)			
I. 資産総額		196,577,622,281	円
内	1. 基本財産	135,092,786,110	円
	2. 運用財産	61,484,836,171	円
	[収益事業用財産	2,850,454,487	円]
II. 負債総額		42,433,260,962	円
	[収益事業用負債	2,561,332,236	円]
III. 正味財産		154,144,361,319	円

資産額			
1. 基本財産			
(1) 土地	89,302.79㎡	57,925,803,396	円
(2) 建物	308,208.486㎡	72,537,502,309	円
(3) 構築物		1,014,244,721	円
(4) 教育研究用機器備品	109,604点	2,031,115,466	円
(5) 管理用機器備品	1,000点	99,434,203	円
(6) 図書	255,211冊	633,998,059	円
(7) 車輛	5台	7,212,506	円
(8) 建設仮勘定		843,475,450	円
2. 運用財産			
(1) 現金、預金		34,458,121,519	円
(2) 特定資産		15,647,780,000	円
(3) その他の固定資産		646,565,181	円
(4) 敷金・保証金		1,007,565,143	円
(5) 収益事業元入金		61,000,000	円
(6) 有価証券		4,020,703,456	円
(7) 貯蔵品	2,645,245点	313,094,718	円
(8) 販売用品	127,845点	330,932,466	円
(9) 未収入金		1,001,035,048	円
(10) 前渡金		0	円
(11) 前払金		71,665,107	円
(12) 預け金		19,120	円
(13) 貸付金		0	円
(14) 仮払金		141,311,009	円
(15) 保険積立金		1,621,805,360	円
(16) 収益事業貸付金		2,163,238,044	円
3. 収益事業用財産			
(1) 事業用敷地	780.94㎡	630,172,220	円
(2) 事業用建物	13,118.54㎡	929,562,054	円
(3) 事業用構築物		215,402,171	円
(4) 現金預金		739,685,226	円
(5) その他		335,632,816	円
資産総額		196,577,622,281	円
負債額			
1. 固定負債			
(1) 長期借入金		6,790,000,000	円
(2) 退職給与引当金		216,275,629	円
2. 流動負債			
(1) 短期借入金		1,388,000,000	円
(2) 未払金		3,534,782,076	円
(3) 生徒預り金		1,475,451,557	円
(4) 前受金		28,592,051,219	円
(5) 預り金		287,955,166	円
(6) 仮受金		148,745,315	円
3. 収益事業用負債			
(1) 長期借入金		2,163,238,044	円
(2) 未払金		260,247,731	円
(3) その他		137,846,461	円
負債総額		42,433,260,962	円
正味財産（資産総額－負債総額）		154,144,361,319	円

(6) 収益事業会計決算

本学園の収益事業は、不動産事業、小田原市委託事業、学習支援事業として日本語学校、フリースクール事業、児童福祉事業として東京都認証保育所（ぽけっとランド）およびスポーツ幼稚園（キッズ大陸）からなり、収益金はこども校などの設置校の教育研究活動に役立てられています。

① 貸借対照表

資産の部合計は、2,850百万円となり、内訳は当該事業で運営する施設等の有形固定資産1,789百万円、ソフトウェア等の無形固定資産5百万円、保証金等の投資その他の資産181百万円、および現預金740百万円を含む流動資産875百万円となっております。

負債の部合計は、2,561百万円となり、内訳は前受金137百万円および未払金260百万円を含む流動負債398百万円、および固定負債（法人からの長期借入金）2,561百万円となっております。

純資産の部合計は289百万円となり、自己資本比率は10.1%、固定長期適合率は73.2%となりました。

② 損益計算書

売上高は、入園者数が増加したことにより、2,315百万円（前期比29百万円の増加）となりました。利益については、売上総利益108百万円、営業損失10百万円、経常利益43百万円、設備費の補助金収入により12百万円の当期利益となっています。

貸借対照表(要約)

(単位:百万円)

科 目	本年度	科 目	本年度
流 動 資 産	875	流 動 負 債	398
有 形 固 定 資 産	1,789	固 定 負 債	2,163
無 形 固 定 資 産	5	元 入 金	61
投 資 そ の 他 の 資 産	181	繰 越 利 益 剰 余 金	228
資産合計	2,850	負債・純資産合計	2,850

※百万円未満は四捨五入

損益計算書(要約)

(単位:百万円)

科 目	決 算
売 上 高	2,315
売 上 原 価	2,207
売 上 総 利 益	108
販 売 管 理 費	118
営 業 利 益	▲ 10
営 業 外 収 益	53
営 業 外 費 用	0
経 常 利 益	43
特 別 損 益	32
当 期 利 益	12

※百万円未満は四捨五入

(7) 監査報告書

監 査 報 告 書

令和6年5月24日

学校法人三幸学園

理 事 会 御中
評議員会 御中

学校法人三幸学園

監事 奈須 善代志

監事 伯母 昭之

監事 石川 淳子

私たち学校法人三幸学園の監事は、私立学校法第37条第3項及び学校法人三幸学園寄附行為第17条の規定に基づき、令和5年度（令和5年4月1日から令和6年3月31日まで）の法人業務、収支及び財産並びに理事の職務執行の状況を監査いたしました。その結果につき以下の通り報告いたします。

1. 監査方法の概要

私たちは、理事会及び評議員会に出席したほか、理事から業務の報告を聴取し、かつ、重要な決裁書類等を閲覧し、主要な関係部署において業務、収支及び財産の状況を調査し、また、会計監査人と連携をとり、計算書類につき検討を行いました。

2. 監査の結果

- (1) 法人の業務に関する決定、理事の職務遂行及び業務の報告に関し、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めます。
- (2) 資金収支計算書、事業活動収支計算書及び貸借対照表（固定資産明細表、借入金明細表及び基本金明細表を含む。）、収益事業に係る計算書類並びに財産目録は、会計帳簿の記載と合致し、法令及び寄附行為に従い法人の収支及び財産の状況を正しく示しているものと認めます。

以上

2. 経年比較表

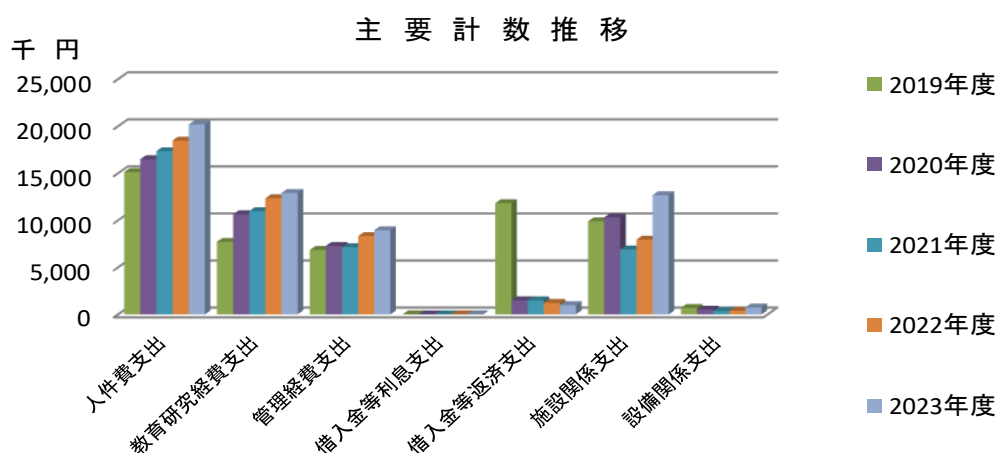
(1) 資金収支計算書5ヶ年比較

収入の部					(単位:百万円)
科目	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
学生生徒等納付金収入	31,477	33,151	36,140	38,541	40,786
手数料収入	431	434	447	485	513
寄付金収入	150	179	196	210	189
補助金収入	3,275	6,487	5,953	64	7,184
受取利息・配当金収入	1,475	1,725	1,580	1,664	1,637
資産売却収入	16,558	31,013	16,783	7,025	11,273
付随事業収・収益事業収入	3,067	3,413	3,728	3,897	4,093
雑収入	335	369	330	487	352
借入金等収入	15,700	0	0	0	4,000
前受金収入	22,022	24,240	25,533	27,613	28,592
その他の収入	17,698	35,440	30,545	17,850	26,013
資金収入調整勘定	△ 21,411	△ 24,194	△ 24,971	△ 26,360	△ 28,650
前年度繰越支払資金	28,152	32,409	31,740	31,070	33,678
収入の部合計	118,927	144,666	128,004	108,874	129,658

(2) 事業活動収支5ヶ年比較

支出の部					(単位:百万円)
科目	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
人件費支出	15,111	16,497	17,335	18,467	20,183
教育研究経費支出	7,708	10,641	10,976	12,345	12,899
管理経費支出	6,844	7,287	7,152	8,318	8,944
借入金等利息支出	11	12	11	8	7
借入金等返済支出	11,820	1,488	1,488	1,238	988
施設関係支出	9,897	10,303	6,901	7,949	12,668
設備関係支出	684	502	357	381	738
資産運用支出	15,854	32,371	23,836	9,597	14,662
その他の支出	20,956	36,739	31,600	20,210	27,689
資金支出調整勘定	△ 2,368	△ 2,913	△ 2,723	△ 3,315	△ 3,578
翌年度繰越支払資金	32,409	31,740	31,070	33,678	34,458
支出の部合計	118,927	144,666	128,004	108,874	129,658

※百万円未満は四捨五入



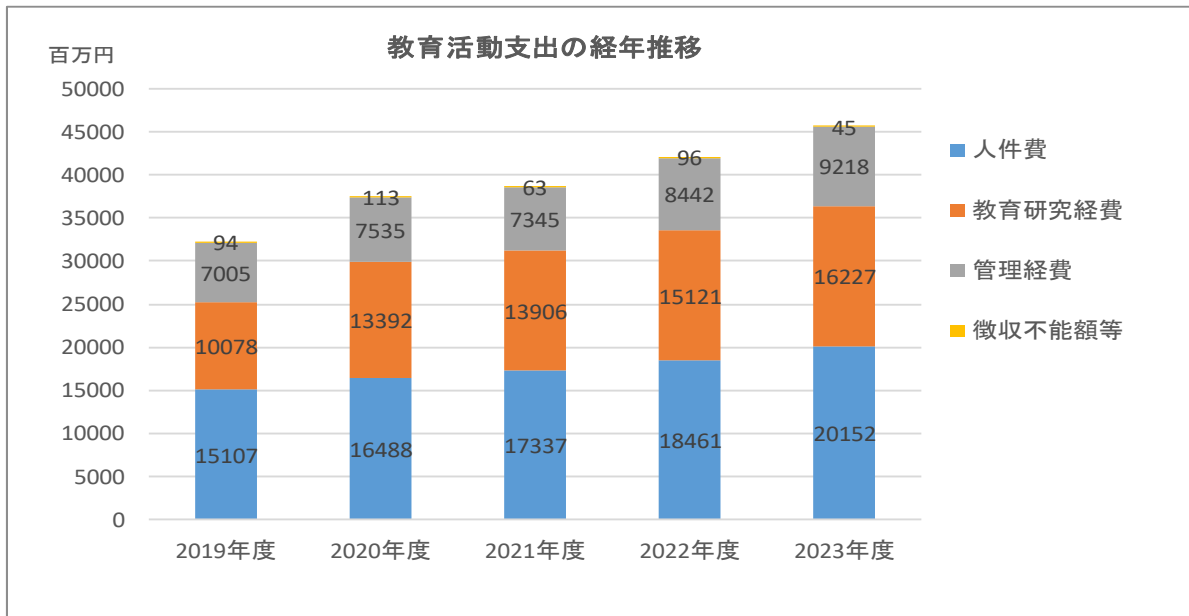
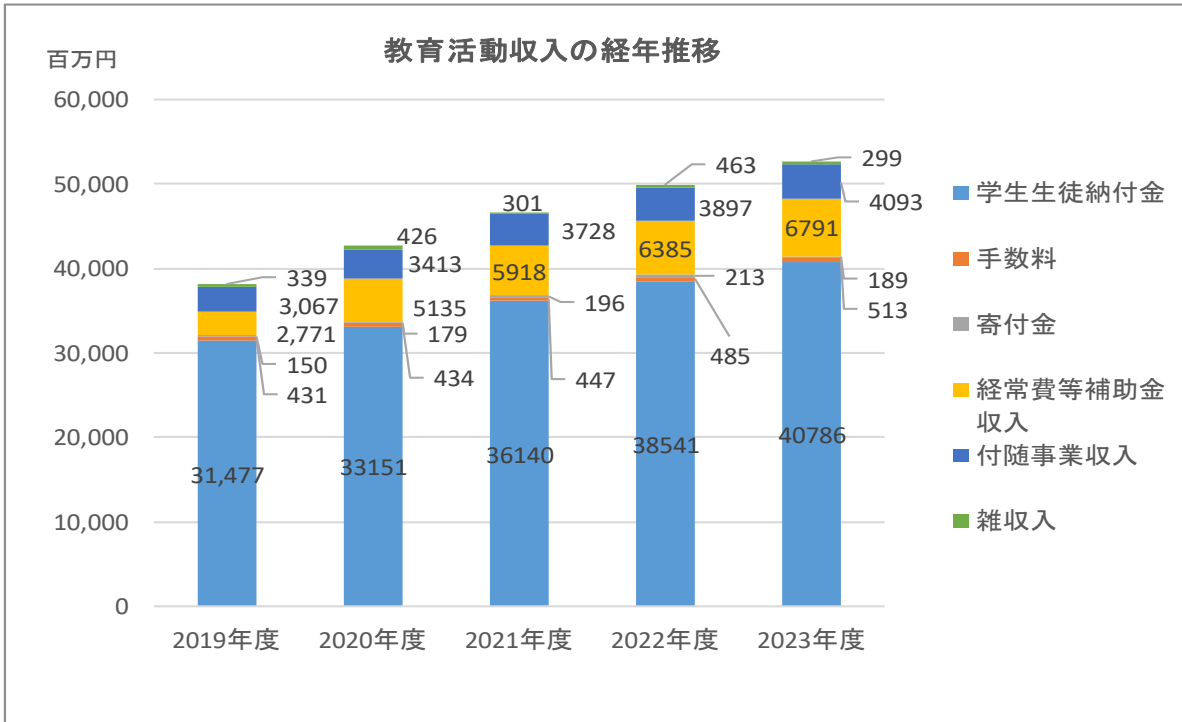
(単位:百万円)

科目			2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	31,477	33,151	36,140	38,541	40,786
		手数料	431	434	447	485	513
		寄附金	150	179	196	213	189
		経常費等補助金収入	2,771	5,135	5,918	6,385	6,791
		付随事業収入	3,067	3,413	3,728	3,897	4,093
		雑収入	339	426	301	463	299
		教育活動収入計	38,234	42,738	46,731	49,985	52,671
	事業活動支出の部	人件費	15,107	16,488	17,337	18,461	20,152
		教育研究経費	10,078	13,392	13,906	15,121	16,227
		管理経費	7,005	7,535	7,345	8,442	9,218
		徴収不能額等	94	113	63	96	45
教育活動支出計		32,285	37,528	38,650	42,119	45,643	
教育活動収支差額			5,950	5,211	8,080	7,866	7,028
教育活動外収支	事業収入の活動部	受取利息・配当金	1,475	1,725	1,580	1,664	1,637
		その他の教育活動外収入	13	69	427	434	325
		教育活動外収入計	1,488	1,794	2,006	2,098	1,962
	事業支出の活動部	借入金等利息	11	12	11	7,552	7
		その他の教育活動外収入	73	3	0	0	0
		教育活動外支出計	84	16	11	7,552	7
	教育活動外収支差額			1,404	1,778	1,996	2,090
経常収支差額			7,353	6,989	10,076	9,956	8,983
特別収支	事業収入の活動部	資産売却差額	270	40	600	203	0
		その他の特別収入	523	1,369	72	9	448
		特別収入計	793	1,409	672	212	448
	事業支出の活動部	資産処分差額	570	67	66	2,211	430
		その他の特別支出	12	9	21	125	32
		特別支出計	582	75	87	2,337	462
	特別収支差額			211	1,334	585	△ 2,125
基本金組入前当年度収支差額			7,564	8,322	10,661	7,832	8,969
基本金組入額			△ 6,363	△ 11,880	△ 8,503	△ 8,260	△ 10,326
当年度収支差額			1,201	△ 3,559	2,159	△ 428	△ 1,357
前年度繰越収支差額			△ 5,271	△ 4,049	△ 7,602	△ 5,431	△ 5,842
基本金取崩額			21	6	12	18	25
翌年度繰越収支差額			△ 4,049	△ 7,602	△ 5,431	△ 5,842	△ 7,174

(参考)

事業活動収入合計	40,515	45,941	49,409	52,295	55,081
事業活動支出合計	32,951	37,619	38,748	44,463	46,112

※百万円未満は四捨五入



(3) 貸借対照表5ヶ年比較

(単位:百万円)

科目	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
固定資産	114,380	123,694	134,452	142,194	156,249
有形固定資産	109,007	116,966	120,718	125,290	135,093
特定資産	1,562	2,761	8,995	12,178	15,648
その他の固定資産	3,811	3,967	4,739	4,726	5,508
流動資産	39,615	40,048	39,649	41,135	40,329
資産合計	153,955	163,742	174,102	183,330	196,578

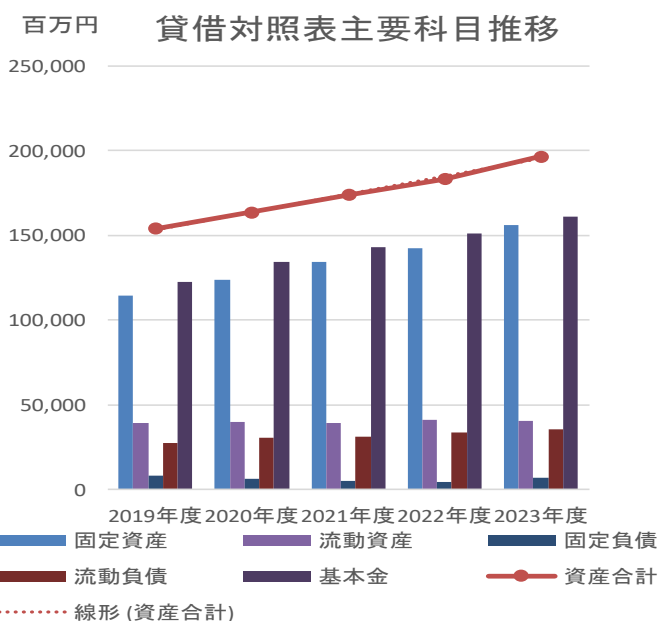
固定負債	8,171	6,674	5,431	4,429	7,006
流動負債	27,464	30,386	31,327	33,725	35,427
負債合計	35,635	37,060	36,758	38,155	42,433
基本金	122,409	134,284	142,775	151,017	161,318
繰越収支差額	△ 4,049	△ 7,565	△ 5,431	△ 5,842	△ 7,174
負債、基本金、消費収支差額合計	153,995	163,742	174,102	183,330	196,578

※新会計基準に基づき記載しております。

※百万円未満は四捨五入

2023年度貸借対照表

流動資産	流動負債 18.0%
20.5%	固定負債3.5%
固定資産	自己資金 78.5%
79.5%	



3. 主な財務比率等

(1) 事業活動収支計算書関係比率（過去5年）

比率	算式（×100）	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年
人 件 費 比 率	$\frac{\text{人件費}}{\text{經常收入}}$	38.0%	37.0%	35.6%	35.4%	36.9%
人 件 費 依 存 率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒納付金}}$	48.0%	49.7%	48.0%	47.9%	49.4%
教 育 研 究 費 比 率	$\frac{\text{教育研究費}}{\text{經常收入}}$	25.4%	30.1%	28.5%	29.0%	29.7%
管 理 経 費 比 率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{經常收入}}$	17.6%	16.8%	15.1%	16.2%	16.9%
事 業 活 動 収 支 差 額 比 率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	18.7%	18.2%	21.6%	15.0%	16.3%
学 生 生 徒 納 付 金 比 率	$\frac{\text{学生生徒納付金}}{\text{經常收入}}$	79.2%	74.4%	74.2%	73.9%	74.7%
寄 付 金 比 率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	0.4%	0.4%	0.4%	0.4%	0.3%
経 常 補 助 金 比 率	$\frac{\text{補助金}}{\text{經常收入}}$	7.0%	11.5%	12.1%	12.3%	12.4%
基 本 金 組 入 率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	15.7%	25.9%	17.2%	15.8%	18.7%
減 価 償 却 比 率	$\frac{\text{減価償却費}}{\text{經常支出}}$	7.7%	7.6%	8.1%	7.8%	6.8%
経 常 収 支 差 額 比 率	$\frac{\text{經常収支差額}}{\text{經常收入}}$	19.0%	15.8%	20.7%	19.1%	16.4%
教 育 活 動 収 支 差 額 比 率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入}}$	15.6%	15.8%	17.3%	15.7%	13.3%

(2) 貸借対照表関係比率 (過去5年)

比率	算式 (×100)	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年
固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	74.6%	75.5%	77.2%	77.6 %	79.5%
流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	25.7%	24.5%	22.8%	22.4%	20.5%
固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	5.3%	4.1%	3.1%	2.4%	3.6%
流動負債構成比率	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	17.8%	18.5%	18.0%	18.4%	18.0%
純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	76.9%	77.4%	78.9%	79.2%	78.4%
固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	96.6%	97.6%	97.9%	97.9%	101.4%
固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産} + \text{固定負債}}$	90.4%	92.7%	94.2%	95.0%	97.0%
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	144.2%	132.0%	126.6%	122.0%	113.8%
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	23.1%	22.6%	21.1%	20.8%	21.6%
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	30.1%	29.2%	26.8%	26.3%	27.5%
前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	147.2%	130.9%	121.7%	122.0%	120.5%
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	95.2%	96.6%	97.8%	98.6%	97.0%

(3) 活動区分資金収支計算書

活 動 区 分 資 金 収 支 計 算 書

令和 5年 4月 1日から

令和 6年 3月 31日まで

(単位 円)

	科 目		金 額
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	40,786,459,662
		手数料収入	512,948,743
		特別寄附金収入	81,390,000
		一般寄付金収入	107,375,329
		経常費等補助金収入	6,790,578,213
		付随事業収入	4,092,791,114
		雑収入	292,529,172
		教育活動資金収入計	52,664,072,233
	支出	人件費支出	20,182,924,949
		教育研究経費支出	12,898,712,746
		管理経費支出	8,911,642,234
		教育活動資金支出計	41,993,279,929
	差引		10,670,792,304
	調整勘定等		1,093,782,864
	教育活動資金収支差額		11,764,575,168
施設整備等活動による資金収支	科 目		金 額
	収入	施設設備寄附金収入	7,000
		施設設備補助金収入	392,945,689
		施設設備売却収入	24,428,723
		減価償却引当特定資産取崩収入	1,000,000,000
		施設整備等活動資金収入計	1,417,381,412
	支出	施設関係支出	12,668,108,861
		設備関係支出	738,177,091
		減価償却引当特定資産繰入支出	2,000,000,000
		修繕積立預金積立金支出	195,000,000
		備品等購入引当特定資産支出	57,000,000
		保育所施設・設備調整引当特定資産支出	195,000,000
		施設整備等活動資金支出計	15,853,285,952
	差引		△ 14,435,904,540
	調整勘定等		△ 113,330,820
	施設整備等活動資金収支差額		△ 14,549,235,360
	小計（教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額）		△ 2,784,660,192

(単位 円)

科 目		金 額
その他の活動による資金収支	収入	
	借入金等収入	4,000,000,000
	有価証券売却収入	11,244,696,760
	保険積立金収入	4,229,883
	卒業生支援特定資産取崩収入	2,500,000
	仮受金受入収入	527,201,894
	短期貸付金回収収入	183,462,500
	長期貸付金回収収入	632,000
	生徒預り金受入収入	2,885,448,143
	預り金受入収入	6,916,815,751
	仮払金回収収入	2,708,932,408
	保証金・敷金収入	22,585,280
	収益事業貸付金回収収入	77,983
	預け金受入収入	10,970,090,565
	小計	39,466,673,167
	受取利息・配当金収入	1,636,748,923
	為替差益	5,081,487
	過年度修正収入	54,056,214
	その他の活動資金収入計	41,162,559,791
	支出	
	借入金等返済支出	988,000,000
	有価証券購入支出	11,640,902,150
	保険積立金支出	549,082,109
	人件費積立金特定資産繰入支出	15,000,000
	卒業生支援特定資産支出	10,000,000
	短期貸付金支払支出	190,537,500
	預り金支払支出	6,889,975,405
	仮払金支払支出	2,709,903,330
	仮受金支払支出	494,281,490
	生徒預り金支払支出	2,852,425,860
	保証金・敷金支出	249,039,246
	預け金支払支出	10,970,091,923
	小計	37,559,239,013
	借入金等利息支出	6,935,343
	為替差損	155,996
	過年度修正支出	32,461,304
	その他の活動資金支出計	37,598,791,656
	差引	3,563,768,135
	調整勘定等	1,384,500
	その他の活動資金収支差額	3,565,152,635
	支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）	780,492,443

活動区分ごとの調整勘定等の計算過程は以下のとおり。

(単位 円)

項目	資金収支計算書計上額	教育活動による 資金収支	施設整備等活動による 資金収支	その他の活動による 資金収支
前受金収入	28,592,051,219	28,592,051,219	0	0
前期末未収入金収入	794,849,687	793,962,687	887,000	0
期末未収入金	△ 1,036,613,706	△ 937,323,706	△ 99,290,000	0
前期末前受金	△ 27,613,452,783	△ 27,613,452,783	0	0
収入計	736,834,417	835,237,417	△ 98,403,000	0
前期末未払金支払支出	3,287,695,609	3,245,530,374	42,165,235	0
前払金支払支出	44,896,562	44,896,562	0	0
期末未払金	△ 3,524,365,501	△ 3,495,743,586	△ 27,237,415	△ 1,384,500
前期末前払金	△ 53,228,797	△ 53,228,797	0	0
支出計	△ 245,002,127	△ 258,545,447	14,927,820	△ 1,384,500
収入計 - 支出計	981,836,544	1,093,782,864	△ 113,330,820	1,384,500